２０１３年度

事 業 実 績 報 告 書

学校法人 国際武道大学

目　　次

Ⅰ．学校法人の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
１．建学の理念・精神
２．沿革
３．設置する学校・学部・学科等
４．学部・学科等の学生数の状況
５．役員及び評議員の概要
６．教職員の概要
７．校地・校舎面積
８．組織図

Ⅱ．事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
１．主な事業の目的・計画及びその進捗状況
（１）将来構想の推進
（２）受験生確保に関する取り組み
（３）教育支援に関する取り組み
◎ 教務関係
◎ 教職関係
（４）進路（就職）支援に関する取り組み
（５）FD に関する取り組み
（６）教員免許更新制に関する取り組み
（７）社会との連携強化に関する取り組み
◎ 国際交流関係
◎ 地域交流関係
（８）広報活動に関する取り組み
（９）安定した財政基盤と経費節減及び省エネに関する取り組み
（10）人事制度に関する取り組み
（11）後援会及び同窓会との連携に関する取り組み
（12）創立 30 周年事業の推進
２．中長期計画に基づく教育施設・設備に関する取り組み
３．入試の状況
2014 年度入試結果集計
４．進学・就職等の状況
2013 年度進路（就職）決定状況調査
５．表彰
（１）2013 年度松前スポーツ・文化賞
（２）2013 年度学業成績優秀者表彰

Ⅲ．財務の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
１．2013 年度決算について
２．財務状況等の経年比較

Ⅳ．処務概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
１．会議（理事会・評議員会・常務理事会）
２．役員・評議員等の異動状況
３．規程・規則等の整備状況

Ⅰ．学校法人の概要

１．建学の理念・精神

本学の理念は「伝統文化の価値を尊重し、武道の平和構想をあまねく普及して、国際友好親善を深め、それによって世界平和を築く」という考えを基に「武道精神を基調とする人材の育成」を目的として設立した。

この理念は松前重義博士の『建学訓』として、大学の精神的な基盤となっている。

建学訓は、人生にとっても最も根本的な課題「いかなる人生を生きるか」という問いに対して、希望と勇気を「武道・スポーツ」の中に見出しながら、人格、体躯、友情を養い、磨き、培い、堂々たる道を歩めと説き、学生・教職員の指針となっている。

建学訓

若人よ　武道によって
不動の人生観を体得せよ
若人よ　武道によって
平和の世界観を把握せよ
若人よ　武道によって
汝の体躯を養え
若人よ　武道によって
忍耐礼節の道を学べ
若人よ　武道体育の精神の下
国際友情の大道を築こう

２．沿革

1979 年	12 月	（財）日本武道館会長として、武道を通じた国際交流を熱心に推進した松前重義は、国際的に活躍できる指導者の育成等の必要性を痛感し、国際武道大学の設立構想を提唱、（財）日本武道館常任理事会において、千葉県勝浦市に国際武道大学の設置を決議
1980 年	1 月	勝浦市議会において、国際武道大学誘致のため 9 万 9,000 平方メートルの土地を無償提供することを全会一致で決議
1981 年	4 月	（財）国際武道大学設立準備財団の設立認可
1983 年	1 月	国際武道大学新築工事起工式を挙行
	12 月	学校法人国際武道大学の設置認可
1984 年	4 月	国際武道大学の開学式及び第一期の入学式を挙行
	6 月	4 号館（図書館・食堂棟）の増築工事及び 5 号館（教室・屋内プール・体育場・体操場）の新築工事に伴う地鎮祭を挙行

	9 月	全天候型陸上競技場（第 3 種公認）及びテニスコート 2 面完成
1985 年	6 月	4 号館の増築及び 5 号館が完成 5 号館屋内プール開きを挙行
	10 月	勝浦市芳賀台に野球場が完成
1986 年	9 月	（財）日本武道館の武道科学研究センターが大学敷地内に完成
1987 年	4 月	6 号館（講義棟）が完成
	8 月	7 号館（第 2 武道館）が完成
1988 年	3 月	第 1 回卒業式を挙行
1991 年	3 月	8 号館（講義・研究棟）が完成
	9 月	松前達郎理事長（第 2 代）に就任
1993 年	10 月	創立者松前重義博士の銅像を建立
1994 年	4 月	別科（武道専修課程）を設置
	9 月	松前記念国際交流会館が完成
1995 年	6 月	（財）日本武道館より武道科学研究センターを受贈
	10 月	附属武道・スポーツ科学研究所を開設
1996 年	4 月	大学院武道・スポーツ研究科を開設
	11 月	野球場に雨天練習場が完成
1997 年	4 月	峯山研修所を開設
2001 年	4 月	スポーツトレーナー学科、国際スポーツ文化学科を開設
2003 年	8 月	オーストリア・ウィーンの松前武道センター内に国際武道大学ヨーロッパ事務所を開設
	9 月	野球場管理棟が完成
	10 月	創立 20 周年記念式典及び祝賀会を挙行（於：勝浦）
		創立 20 周年記念祝賀会を挙行（於：東京）
2004 年	10 月	サッカー場（ＪＦＡ公認）が完成
2007 年	4 月	20 周年記念 9 号館（講義・研究棟・トレーニングルーム）が完成
2008 年	9 月	人工芝ラグビー場が完成
2013 年	4 月	武道学科（6 コース）及び体育学科（8 コース）の 2 学科体制へ改組
	10 月	創立 30 周年記念式典及び祝賀会を挙行 松前達郎記念球場・屋内野球練習場が完成

３．設置する学校・学部・学科等（2013 年 5 月 1 日現在）

法人の名称　　学校法人国際武道大学
法人の所在地　　千葉県勝浦市新官 841 番地
学　校　名　　国際武道大学
大学所在地　　千葉県勝浦市新官 841 番地

名　称			開設年度	学長
国際武道大学	大 学 院	武道・スポーツ研究科	1996 年度	蒔田　実
	体育学部	武道学科	1984 年度	
		体育学科	1984 年度	
		スポーツトレーナー学科	2001年度 （2013年度から募集停止）	
		国際スポーツ文化学科	2001年度 （2013年度から募集停止）	

４．学部・学科等の学生数の状況（2013 年 5 月 1 日現在）

（　）内は女子学生内数

	学科等	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
大 学 院	武道・スポーツ研究科	10	2（0）	20	10（1）
体育学部	武道学科	80	127（19）	440	496（79）
	体育学科	360	409（54）	960	1,120（108）
	ｽﾎﾟｰﾂﾄﾚｰﾅｰ学科	募集停止	―　(―)	180	213（80）
	国際ｽﾎﾟｰﾂ文化学科	募集停止	―　(―)	180	210（27）
	体育学部計	440	536（73）	1,760	2,039（294）
別　　科	武道専修課程	20	10（2）	20	10（2）
合　　計		470	548（79）	1,800	2,059（297）

※体育学部スポーツトレーナー学科及び国際スポーツ文化学科は、2013 年度から学生募集を停止。

５．役員及び評議員の概要（2013 年 5 月 1 日現在）

（１）理事・監事の構成

	定　数	現　員	任　期	備　　考
理　事	15～25 人	21 人	4 年（1、2 号除く）	理 事 長　1 人 副理事長　1 人又は 2 人 常務理事　7 人以内
監　事	2 人	2 人		

（２）寄附行為選任条文（理事、監事）

（役員）

第5条　この法人に、次の役員を置く。

一　理事　15人以上25人以内

二　監事　2人

2　理事のうち1人を理事長とし、1人又は2人を副理事長とすることができ、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長又は副理事長の職を解任するときも、同様とする。

3　理事(理事長及び副理事長を除く。)のうち7人以内を常務理事とし、理事総数の過半数の議 決により選任する。常務理事の職を解任するときも、同様とする。

（理事の選任）

第6条　理事は、次の各号に掲げる者とする。

一　学長

二　副学長

三　評議員のうちから評議員会において選任した者　4人以上6人以内

四　学識経験者のうちから理事会において選任した者　9人以上17人以内

2　前項第1号及び第2号の理事がその職を退いたとき、又は第3号の理事が評議員の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

（監事の選任）

第7条　監事は、この法人の理事、職員(学長、副学長、教員、その他の職員を含む。以下同じ。)又は評議員以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。

（役員の任期）

第8条　役員(第6条第1項第1号及び第2号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。)の任期は、4年とする。ただし、補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

2　役員は、再任されることができる。

3　役員は、任期満了の後でも、後任の役員が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

（３）理事・監事名簿

［理事定数　15 人以上 ～ 25 人以内］　　［監事定数　2 人］

［理事現員　21 人］　　［監事現員　2 人］

区　分	氏　名	選任条項	備　考
理事長	松前　達郎	6－1－3	
副理事長	尾郷　良幸	6－1－3	
副理事長	松前　義昭	6－1－4	
常務理事・学長	蒔田　　実	6－1－1	
常務理事・副学長	高見　令英	6－1－2	
常務理事・事務局長	中村　敏之	6－1－3	
常務理事	直井　三郎	6－1－3	
常務理事	青木　勝彦	6－1－4	
常務理事	岩井　美樹	6－1－4	
理　事	大平　光洋	6－1－3	
理　事	安西　邦夫	6－1－4	2013.6.9 逝去
理　事	佐伯　弘治	6－1－4	
理　事	佐藤　宣践	6－1－4	
理　事	篠田　基行	6－1－4	
理　事	武安　義光	6－1－4	
理　事	豊田黎一郎	6－1－4	
理　事	中島　一郎	6－1－4	
理　事	成澤　三雄	6－1－4	
理　事	平山　正剛	6－1－4	
理　事	宮脇　磊介	6－1－4	2014.2.9 逝去
理　事	森　　英介	6－1－4	
監　事	内田　安昭	7－1	
監　事	笠巻　孝嗣	7－1	

（４）評議員の構成

区　分	定　数	現　員	任　期	備　　考
第１号評議員	5～9 人	8 人	3 年	理事兼任４人
第２号評議員	5～9 人	7 人	3 年	
第３号評議員	21～33 人	28 人	3 年	理事兼任 14 人

（５）寄附行為選任条文（評議員）

（評議員会）

第21条　この法人に、評議員会を置く。

2　評議員会は、31人以上51人以内の評議員をもって組織する。

（評議員の選任）

第25条　評議員は、次の各号に掲げる者とする。

一　この法人の教職員で理事会において推薦された者のうちから、評議員会において選任した者5人以上9人以内

二　この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25歳以上の者のうちから、理事会において選任した者5人以上9人以内

三　学識経験者のうちから、理事会において選任した者　21人以上33人以内

2　前項第1号に規定する評議員は、この法人の教職員の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。

（任期）

第26条　評議員の任期は、3年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

2　評議員は、再任されることができる。

（６）評議員名簿

［評議員定数　31 人以上～51 人以内］　　［評議員現員　43 人］

区　分	氏　名	備　考
第一号	清水　宣雄	
第一号	田中　　守	
第一号	松井完太郎	
第一号	丸橋　利夫	
第一号	蒔田　　実	理事兼任
第一号	髙見　令英	理事兼任
第一号	中島　一郎	理事兼任
第一号	岩井　美樹	理事兼任
第二号	秋場　信広	
第二号	石原　達朗	
第二号	岩切　公治	
第二号	大崎　栄貴	
第二号	清宮　正喜	
第二号	深谷　典昭	
第二号	藤田　　純	
第三号	新井　庸弘	
第三号	岩壁　達男	
第三号	植芝　守央	
第三号	大野　孝弘	
第三号	片山幸太郎	
第三号	木村　恭子	

区　分	氏　名	備　考
第三号	栗原　茂夫	
第三号	齋藤　壽男	
第三号	柘植　健司	
第三号	長谷川博之	
第三号	樗澤　隆治	
第三号	三藤　芳生	
第三号	宮脇　保博	
第三号	山下　泰裕	
第三号	青木　勝彦	理事兼任
第三号	安西　邦夫	理事兼任　2013.6.9 逝去
第三号	大平　光洋	理事兼任
第三号	尾郷　良幸	理事兼任
第三号	佐伯　弘治	理事兼任
第三号	佐藤　宣践	理事兼任
第三号	豊田黎一郎	理事兼任
第三号	直井　三郎	理事兼任
第三号	中村　敏之	理事兼任
第三号	平山　正剛	理事兼任
第三号	松前　達郎	理事兼任
第三号	松前　義昭	理事兼任
第三号	宮脇　磊介	理事兼任　2014.2.9 逝去
第三号	森　　英介	理事兼任

６．教職員の概要

教員数　　（2013 年 5 月 1 日現在）

	教　授	准教授	助　教	助　手	合　計
武道学科	11	3	2	0	16
体育学科	10	8	5	1	24
スポーツトレーナー学科	6	5	1	0	12
国際スポーツ文化学科	5	4	2	1	12
別　科	0	1	0	0	1
計	32	21	10	2	65

※ 特任教員（助教 2 名）含む

職員数　　（2013 年 5 月 1 日現在）

職　員	40
嘱託（常勤）	10
小　計	50
嘱託（非常勤）	9
派遣事務職員	4
非常勤職員	2
合　計	65

７．校地・校舎面積

2013 年 5 月 1 日現在（平成 25 年度学校基本調査）

学校土地の用途別面積（職員宿舎を除く）				
校舎・講堂・体育施設敷地	屋外運動場敷地	寄宿舎施設	その他	計
㎡ 45,949	㎡ 118,504	㎡ 10,371	㎡ 2,507	㎡ 177,331

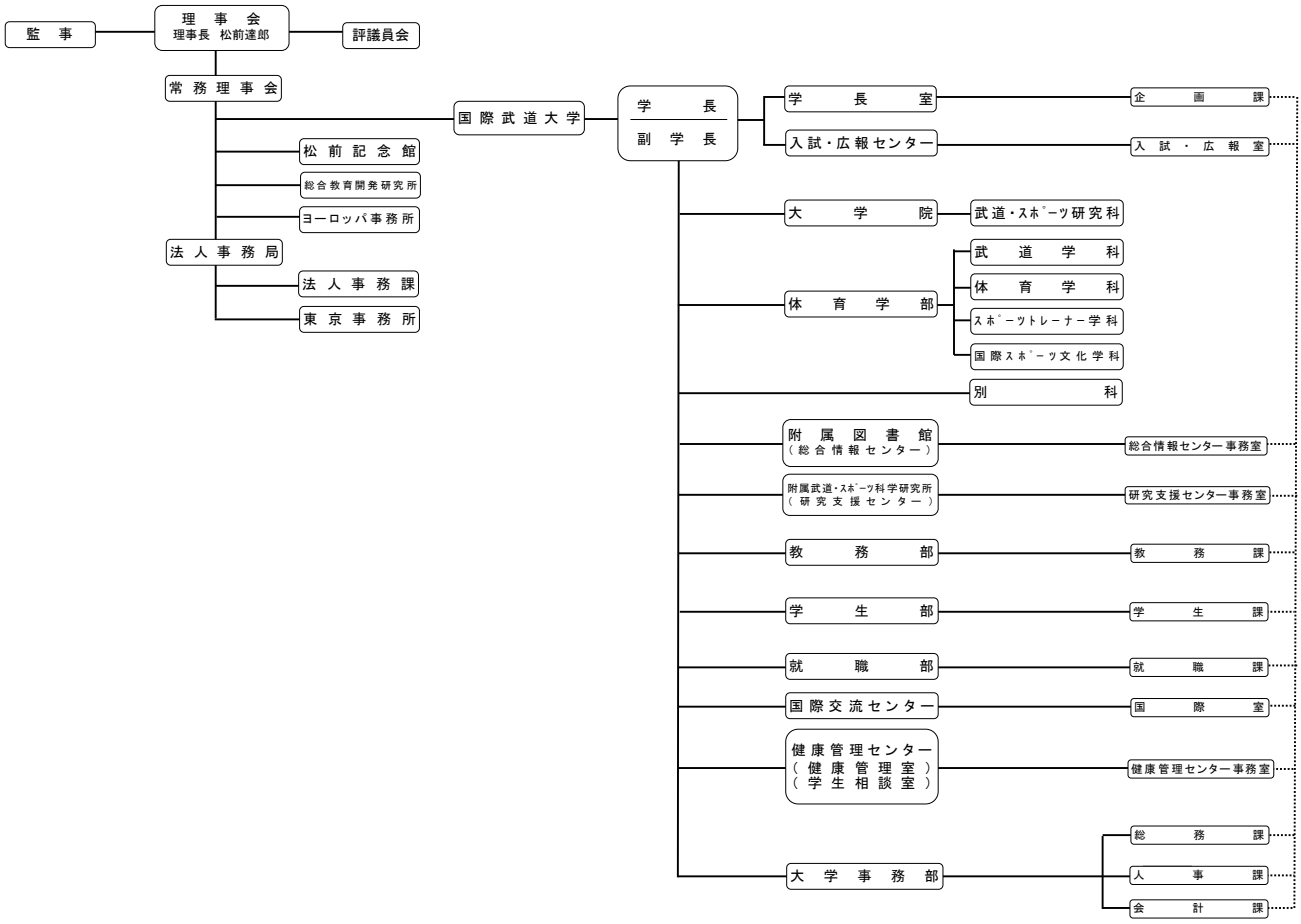
学校建物の用途別面積（延面積）（職員宿舎を除く）				
校舎				
講義室・演習室	実験室・実習室	研究室	図書館	管理関係・その他
㎡ 4,322	㎡ 2,704	㎡ 1,326	㎡ 866	㎡ 17,469

学校建物の用途別面積（延面積）（職員宿舎を除く）				
体育施設	寄宿舎	その他	計	学校建物の用途別面積のうち厚生補導施設（再掲）
㎡ 9,071	㎡ 1,979	㎡ 609	㎡ 38,346	㎡ 2,278

職員宿舎の土地面積（学校土地の用途別面積以外の土地面積）	職員宿舎の建物面積（学校土地の用途別面積以外の土地面積）
㎡ 2,211	㎡ 3,434

８．組織図

学校法人国際武道大学･国際武道大学組織図



Ⅱ．事業の概要

１．主な事業の目的・計画及びその進捗状況

（１）将来構想の推進

① 大学院改革

学部改組に伴う大学院研究科の教育課程等の見直しについて大学院改革プロジェクトを軸に推進した結果、2014 年度開始が確定した。

また、本学卒業生の大学院進学を促進するために、学費等についての減免措置の見直しを行った結果、受験生が昨年度実質 1 名から 8 名に増加し、7 名が合格するに至たり、大学院の新規担当教員も学部専任教員の中から 3 名増やすことができた。

研究促進については、科学研究費助成事業において、応募 13 件中 4 件、新規採択 1 件中 1 件について大学院教員が応募研究者であった。

また、本学における大学教育研究プロジェクト採択研究においては、4 件中 3 件、研究所プロジェクト採択研究 3 件中 3 件で、応募研究者及び共同研究者に多くの大学院教員が含まれていた。

② 教育方法等

2014 年度開始の新しい教育体制に伴い、新カリキュラムのシラバスの見直しを図った。今年度の FD 活動については、昨年度に引き続き教育課程等の見直しについて論議をすることを軸として位置づけ、その他については大学における学内 FD 研修会参加に留めた。

授業評価に関しては、少人数クラスを対象とした調査のため、客観的データを取る困難さはこれまでと同様排除できないが、従来通りの評価シートを用いた評価を継続的に実施している。

③ 学位授与・課程修了の認定

今年度も、大学認証評価結果の助言どおり、学位授与方針や修士の学位論文にかかる審査基準など、学位授与基準を「2014 年度大学院募集要項」および「2013 年度大学院履修の手引・授業概要」に明示し学生へ公表を行った。

④ その他

今年度、本学で実施された日本武道学会においても、昨年度の学会に引き続き、大学院生が学会運営等に積極的に参加し、学会に貢献した。

（２）受験生確保に関する取り組み

① 入試入学定員

2 学科構成になり志願者が伸びた昨年に比べ、2 年目の 2013 年度は志願者が減少した。そのため、昨年度の課題となった学部入学者数の定員超過率 1.22 倍は、1.10 倍になり改善ができた。

今後も収容定員に対する在籍学生比率に関して適正に取り組む。

② 学生募集

学生募集活動内容は基本的に前年度のものを継承した。従来のクラブ募集活動、オープ

ンキャンパス、高校生向け会場ガイダンス・各高等学校で開催される模擬授業などへの積極的に参加した。

③ 入試制度・実施

滞りなく実施した。天候に恵まれない時には、携帯カイロを配付したり、試験会場入場時刻を繰り上げる等の便宜をはかった。

④ 広報活動

広報活動は、印刷媒体として広報誌WAY、全国高校総体全競技パンフレットへの広告掲載など、WEB媒体として、本学のオフィシャルサイトおよび各業者運営のウエブサイトなどを通じておこなった。

（3）教育支援に関する取り組み

◎ 教務関係

昨年度に引き続き、「教育振興基本計画（2008年7月1日閣議決定）」、「学士課程教育の構築に向けて（2008年12月24日　中央教育審議会答申）」、「大学教育の質保証の在り方について（2010年7月22日　日本学術会議）」、「スポーツ立国戦略（2010年8月26日　文部科学省）」、「スポーツ基本法（2011年6月24日公布）」、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（2012年8月28日 中央教育審議会答申）」並びに「大学設置基準」に沿って学部段階の教育、いわゆる「学士課程教育」の質保証・向上に向けて、「教育課程の体系化」、「単位制度の実質化」、「教育方法の改善」、「成績評価の厳格化」等を図るための取り組みを行った。

さらに、2013 年度から 2 学科に改組（収容定員関係学則変更）したことに伴い、教務システムの改修とともに、「学生支援システム（学生カルテ）」「Web 履修システム」及び「Web シラバスシステム」等を構築し運用を開始した。

① 教育課程

我が国の大学教育のシステムは、諸外国と同様、単位制度を採用している。本学においても同様であり、単位制度の的確な運用は、教育の質の維持、国際的な通用性の確保の観点から不可欠なものである。従来、単位制度をとっていなかった欧州においても、欧州高等教育圏の実現を目指す一環として、その導入に踏み切っており、単位制度の考え方は一種の国際標準となりつつある。

このような状況を踏まえ、本学も単位制度の実質化をさらに推進する必要に迫られている。このためには、シラバスの充実、キャップ制、GPA 制度の導入とその相互連携が重要である。シラバスにおいては「準備学習等についての具体的な指示」、「到達目標」、「成績評価基準の明示」等を盛り込んでいく必要がある。

キャップ制については、一年間の上限単位数を適正に定め、各年次にわたって適切に授業科目を履修させるよう努めなければならない。

また、GPA について文部科学省は、成績評価基準の明示、海外で一般的に普及している GPA 等の客観的な仕組みの導入を各大学に促しており、本学においても速やかに GPA をはじめとする客観的な評価システムを導入し、組織的に学修の評価にあたっていくことが必要である。

教務委員会はこれらの改革を推進するため、その第1段階として2010年度にシラバスの見直しに着手しその様式を大幅に変更し、各授業科目における「準備学習等についての具体的な指示」、「到達目標」、「成績評価基準の明示」等を盛り込んだ。2013年度は様式を変更して4年目を迎え、シラバスの内容は充実してきており、今後も継続していく。

また、キャップ制、GPA等の導入については、2013年度からの学科改組と同時に導入し運用を開始した。キャップ制は、原則として49単位とし、成績評価については、A～D評価に最高評価のSを加えたGPA制度を導入した。

② カリキュラム

2013年度は、01カリ、07カリ、10カリ、12カリ及び13カリの5つのカリキュラムを同時に運用した。このため、科目対応等については十分な確認と慎重な運用に努めた。特に13カリに関しては、初年度の運用であるため、授業運営、履修者調整及び履修指導には特に注意をはらった。

③ グローバル人材育成の推進

世界の多様な価値観を理解し、コミュニケーション能力ならびに幅広い人間性と高い倫理感を持ち、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るべく、次のとおり授業を展開した。

1. 海外研修（3年次集中授業）

事前に、各種目の国際化、海外事情及び研修先の歴史、文化、社会情勢等について学習し、研修先での各連盟の協力により開催される合同練習、親善試合、講習会等を計画した後、各専修別で海外研修を行った。

また、この研修は、学生にとって国際交流、異文化体験等としても有意義で充実したものであった。

柔道専修は、越野忠則准教授の引率により、15名の学生が、2/10（月）～16日（日）の期間にオーストラリア（ブリスベン、ゴールドコースト）に渡航し、オーストラリア柔道連盟との親善試合及び合同練習を行った。合同練習には、多くの参加者が集まった。

剣道専修は、井島章教授、丸橋利夫教授、岩切公治教授の引率により、22名の学生が2/7（金）～16日（日）の期間にオーストリア（ウィーン）に渡航し、オーストリア剣道連盟協力のもと、オーストリア、ハンガリー、セルビア等のヨーロッパ諸国から多くの参加者が集まり、合同稽古及び親善試合等が行われた。

各種武道専修は、松尾牧則教授の引率により、4名の学生（弓道専攻）が、2/7（金）～19日（水）の期間、オーストリア（ウィーン）、ハンガリー（ブダペスト）に渡航し、地元弓道連盟の協力のもと、ウィーンとブタペストで各2日間の弓道講習会を行った。講習会には、オーストリア、スロベニア、ポーランド、ハンガリー等、多くの国々より参加者が集まった。

2. スポーツ交流実習（3年次集中授業）

事前に、海外事情及び研修先の歴史、文化、社会情勢等について学習し、指導書作成や支援物資提供依頼等の準備を重ね、現地学校長より承諾を受け、海外研修が行われた。

松井完太郎教授、木村寿一准教授の引率により、17名の学生が、2/19（水）～3/4（火）の期間、カンボジア王国（シェムリアップ州、シハヌークビル州）に渡航し、シハヌークビ

ル州小学校教員養成学校付属小学校運動会、シハヌークビル小学校教員養成学校スポーツ交流会、サムディクアウ高校、プラサットバコン高校スポーツ指導及び両校対校戦を開催した。

④ 時間割

2013 年度の時間割編成については、カリキュラム検討部会からの方針を受け策定した。「収容定員関係学則変更」（学科改組）に係るカリキュラム変更にあわせて、新 1 年次生と 2～4 年次生の時間割をいかに合理的に編成するかに重点をおき作成した。新旧カリキュラムの移行期において、学生への科目の担保と教員の負担を考慮しつつ慎重に検討しながら編成した。

⑤ 創立 30 周年記念事業「学生支援システム」の構築

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。

これらを実現するために、「学生支援システム（学生カルテ）」「Web 履修システム」及び「Web シラバスシステム」等を構築し運用を開始した。

さらには、学生の主体的な学修を支援し、学士課程教育の質的転換を好循環させるために、文部科学省「私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金」の採択を得て、「学びの自己点検サイクル確立のための達成度自己評価システム」（ポートフォリオシステム）を開発した。これにより、本学の「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」に沿った、確かな「学士力」を備えた人材を養成する。

◎ 教職関係

① 教職課程全般

本年度は、計 10 回の教職課程部会を開催した。本学教職課程は、「学び続ける教員像」を軸に、質の高い教員の輩出を目指している。本年度に報告があった教員採用試験合格者（卒業生を含む）は公私立をあわせて 51 名であった。このうち現役合格者は 3 名（千葉県公立小学校 1 名・中学校 1 名、神戸市中学校 1 名）であった。教員免許状一括申請者数は、高免一種 159 名、中免一種 157 名、高専修 3 名、中専修 3 名、小学校二種 25 名であった。

その他、2013 年度から「教職実践演習（中・高）」を開講した。教職実践演習は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。

学生は、この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。このため、課程認定大学としての知見を結集して、理論と実践の有機的な統合が図られるよう、履修カ

ルテを作成し学習過程や内容の整理・蓄積を行うとともに、知識技能の修得度を確認するために、模擬授業等を実施した。さらに学校教育活動全体の流れを理解するために、学校教育活動にも参加し指導にあたった。これらを通じて教員としての資質（使命感や責任感、教育的愛情、対人関係能力、教科指導力等）を確認した。

② 教職塾（教員採用試験対策特別講座）の開講

平成 24 年 8 月 28 日中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の中で、「これからの教員に求められる資質能力」として、次のとおり掲げられている。

・これからの社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開、学校現場の諸課題への対応を図るためには、社会からの尊敬・信頼を受ける教員、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教員、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する教員が必要である。

・ また、教職生活全体を通じて、実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教員が探究力を持ち、学び続ける存在であることが不可欠である(「学び続ける教員像」の確立)。

教職課程部会では、「教職実践演習」で、教員としての資質能力を確認することと平行して、これら中教審答申で求められている教員を養成し、教員採用試験合格を支援するため、教職塾（教員採用試験対策特別講座）を開講した。

③ 小学校教諭 2 種免許状取得プログラム

2013 年度から、従来の淑徳大学通信教育部に加えて、新たに明星大学通信教育部との提携により開始した。2013 年度は、計 71 名の学生が小学校教諭 2 種免許状取得を目指しプログラムに参加した。なお、本年度の 2 種免許状取得者は、25 名であった。

④ 教育実習オリエンテーション、教育実習Ⅰ・Ⅱの内容の改善

教職オリエンテーション、教育実習Ⅰ・Ⅱで行われる教育実習事前・事後指導の内容を改善した。

教職オリエンテーションでは、教職課程の目的や教職の意義について確認するとともに、実践的指導力を身につけた教員になるための情報提供を行った。特に教職履修全学生を対象に、教員採用試験現役合格者の講演を行った。

教育実習Ⅰ・Ⅱでは、実践的な内容を多く取り入れることによって、実践的指導力の確認を行った。

⑤ 科目等履修生の指導

教職志望の科目等履修生の指導の充実を図った。具体的には、教職志望の科目等履修生全員に対して、教育実習前（4～5 月中）の期間において、教育実習プレセミナーにスチューデント・アシスタントとして参加させ、模擬授業を実施した。

（4）進路（就職）支援に関する取り組み

① 低学年からの支援

2013 年度からキャリア教育の授業化による授業科目として「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」及び「インターンシップ」が開設されている。また、教務課ではキャリア支援冊子で

ある「ステップアップ」を配付し、キャリア授業の資料として活用している。

キャリア教育と連動し、就職部では 2 年次生対象に「大学入学の目的と将来への夢」を学生に考察させるための「特別講演」を実施した。

② キャリア支援の取り組み

就職課では大学が実施するキャリア教育と並行し、キャリア形成支援冊子「就勝 BOOK2013」を資料として支援イベントを多岐にわたり実施した。

イベントでは、前年度に引き続き、重要な内容は必須参加で月例とし、これを中心に各種「進路（就職）支援行事」を実施した。特に 3 年次生については、意識高揚を目的に、年度当初に「就勝オープニングセミナー（出陣式挙行）」を開催した。

本学学生の進路は、大きく企業、教職、公務員の 3 方向へと分かれている。

企業就職希望者へは随時学内での会社説明会を合同、または単体で開催し、最新の採用情報の提供を行った。また、就職試験に欠かせないエントリーシート対策等の指導をはじめ、将来へ向けたキャリアデザインのために必要な「自己理解」を中心とした講座を数次にわたり開講した。

近年の学力低下への対策として「基礎学力向上講座」を 5 月上旬から全 18 回開講した。また、就職全般における「就活ゼミ」全 15 講座を開講した。

本学では警察官や消防官への志望者が多いことから採用試験に特化した「警察官・消防官試験対策講座」を年間 36 回開講した。その他、教員採用試験対策として、教職課程委員会が教員試験対策講座である「教職塾」を数次にわたり開催し、それに連動して就職課においても「教員採用模擬試験」を実施した。

社会を生抜く哲学を伝授する「オヤジ・オフクロのセミナー」や、早期離職回避策である「営業ロールプレイング」といった取り組みを継続して行った。

また、社会人としてのマナーを身につけさせるための「マナー講座」や、正しい日本語表現が重要であることから「日本語検定」を実施した。

求人情報の提供については、大学独自の求人検索システム「武大ナビ」を活用させるとともに、就職課員による進路相談のほか、ハローワークのキャリアカウンセラーによる進路相談・就職斡旋を週 1 回の割合で実施した。また、就職課員が全国の企業・公務の担当者から求人情報を収集するとともに、新聞社・就職情報各社が主催する企業との情報交換会へ参加し採用情報を収集した。

特に、本学では 4 年次生への個別での就職支援を徹底化させている。体育系大学特有の部活を終えてからの出遅れた就職活動学生に対し真摯に対応している。4 年次生の 9 月に開催するガイダンスで進路調査を行い、未内定者に対して、就職課のサポートを希望する学生を受け付け、その後、サポート希望者全員に対し、電話連絡で状況を報告させ、停滞している学生を面談し、紹介・斡旋を行う。マッチしない場合は新規に企業開拓を行うなど、その大半の就職先が決定するまで根気強く支援を展開している。

③ キャリア関連行事への学生動員

支援行事への学生周知については、学生の自主性と責任感を促すため掲示の閲覧を指導した。

大手情報会社が主催する「合同企業セミナー」へ数回にわたり学生引率を行なった。

また、保護者に子息・子女に対するキャリア支援行事への参加をお願いし、「後援会だより」に関連記事を掲載して周知を図った。

④ 進路状況の把握

就職課ではウェブ上で進路報告を指導したが、端末操作やシステムへのログイン等の手間から報告者が少なく状況把握が困難となっている。このことから、毎年のことながら演習担当教員の協力を得て進路調査を実施した。

進路調査は、卒業時点での決定情報を最終としてはいるものの、卒業後数週間における活動継続者（公立中・高等学校非常勤講師等）の動向を把握した。

（5）FD に関する取り組み

① 大学 HP を活用した「学生による授業評価アンケート」の実施

前期（7 月）・後期（2 月）の計 2 回、「学生による授業評価アンケート」を実施した。全学生を対象とし、演習及び集中授業を除く全科目について実施した。回答方法は前年度と同様で大学ホームページ内のポータルサイトを活用して、学生が履修登録した科目について評価入力を行う。今年度のアンケート回答率は、前期 51.7%、後期 47.0%であり、両学期とも前年度の回答率を上回る結果となった。

アンケート集計結果については、全体の総合的な集計結果（学科別・学年別等）を DVD 及び冊子として取りまとめ、学長・副学長・学部長に対して DVD にてデータを渡すとともに、図書館の閲覧用として冊子を設置している。また、科目担当教員に対しては、アンケート集計システムから担当科目の集計結果及びフリーアンサー（学生の意見・要望等）一覧表の閲覧を実施した。なお、大学ホームページにはアンケート対象科目（全科目）毎の評価一覧（評価平均値）を公表した。

② Web を活用したシラバス・履修申告システムの導入

本年度より新たな取り組みとして「Web によるシラバス・履修申告システム」を導入し運用を開始した。このシステムは新カリキュラムとなった 1 年次生を対象としており、学生による履修申告（登録）及び全授業科目内容等の閲覧機能を有している。

③ 大学間連携共同教育推進事業（文部科学省補助金事業）の実施

山形大学を代表校として文部科学省に申請し採択された「FD に関する地域連携事業」は今年度で 2 年目となった（補助対象期間：5 年間）。昨年度に実施した事業内容をベースとし、今年度は次に挙げる事業内容について参加し、積極的に取り組んだ。

・FD 合宿セミナー（教員 1 名参加）
・SD 研修会（職員 1 名参加）
・学生 FD 会議（学生 1 名、職員 1 名参加）
・大学間大地連携ワークショップ（学生 3 名、職員 1 名参加）。

また、代表校（山形大学）からの本事業に関する原稿依頼及び学生動員（追加）等の要請に対しても適宜・迅速に対応することができた。

④ 学内 FD・SD 研修会の実施

今年度は前期（9 月）・後期（2 月）の計 2 回実施することができた。

前期は「ジェネリックスキルの育成と評価」というテーマで、学外講師を招き、学内 FD

研修会を実施した（参加教職員数 59 名）。

後期は、昨年度に引き続き「救命処置講習 ～誰もが知っておきたい心肺蘇生法と AED 使用法～」をテーマとし、本学非常勤講師による心肺蘇生法及び AED 使用方法について実習を用いた研修が実施された（参加教職員数 46 名）。本学では、学内に AED が 13 箇所に設置されており、本研修会の内容については、全学生が授業として単位を修得することから、「日本一安全な大学」であると位置づけている。

⑤ 授業の総合的検討プロジェクトの実施

昨年度に引き続き、2013 年度カリキュラム（新カリ）科目を対象とした「授業の総合的検討プロジェクト」を継続して実施した。今年度は 2014 年度開講科目（2 年次生科目）を新たに含め、前年度検討が不十分であった科目等についても科目領域毎の担当者間で話し合いが行われた。

⑥ 基礎実技指導法授業マルチメディア教材つくりの実施

本件も昨年度に引き続き「授業の総合的検討プロジェクト」と平行して、2013 年度カリキュラム（新カリ）における基礎実技指導法に関する科目を対象として、マルチメディア教材の作成を継続的に行った。

⑦ 初年次教育教材作成プロジェクトの実施

2013 年カリキュラムに導入された初年次教育科目を総合的に検討するためのプロジェクトが新たに設置された。プロジェクトでは、主に新規教材の作成について検討し、授業内容の充実及び共有化を図るための取り組みがスタートした。

（6）教員免許更新制に関する取り組み

① 教員免許状更新講習

2013 年度は、「必修領域」及び「選択領域」両方の講習を実施した。

必修領域 12 時間　2013 年 8 月 22 日(木)～23 日(金)

「教育の最新事情」受講者 35 名

講師：髙見令英教授、髙木誠一准教授、佐藤記道准教授、魚住孝至教授、
中島一郎教授、多田寿康准教授、立木幸敏准教授、井下佳織助教

選択領域 18 時間　2013 年 8 月 19 日(月)～21 日(水)

「安全に親しめる柔道授業の在り方」受講者 13 名

講師：柏崎克彦教授、山本利春教授、矢﨑利加准教授

「授業に生かそう！保健の教材つくり」受講者 20 名

講師：小磯透教授、立木幸敏准教授、中西純准教授、笠原政志助教

（7）社会との連携強化に関する取り組み

◎ 国際交流関係

① 交換留学の受入及び派遣

2013 年度交換留学生の受入は、春セメスター2 ヵ国 5 名（前年度比-2）であった。内訳は、龍仁大學校（大韓民国）から 3 名及び国立体育大学（台湾）から 2 名を受入れた。秋

セメスター2 カ国 5 名（前年度比-1）であった。内訳は、龍仁大學校から 3 名及び国立体育大学から 2 名を受入れた。過去 5 年間の受入（春・秋）数の多い順は、龍仁大學校 38 名、国立体育大学 12、国立天津体育学院 6 名となっている。

2013 年度交換留学生の派遣は、春セメスター0 名（前年度比-2）であった。秋セメスター1 カ国 3 名（前年度比＋1）であった。内訳は、コンコーディア大学へ 2 名及びハワイ東海インターナショナルカレッジ 1 名を派遣した。交換留学希望者の留学先は、例年同様英語圏に限定的である。

② 短期外国人研修生

2013 年度短期外国人研修生の受入は、23 ヵ国のべ 268 名（前年比-30）現在であった。種目別受入数は、柔道 17 ヵ国 197 名（前年度比-33）、剣道 5 ヵ国 43 名（前年度比＋37）、弓道 3 ヵ国 24 名（前年度比+6）及びなぎなた 1 ヵ国 4 名（前年度比+4）であったが、合気道、空手等の各種武道関係及びスポーツに関する受入れはなかった（前年比-44）。

短期研修生の種目は剣道が増えてきているが、例年同様柔道が多数を占めている。

③ 短期スポーツ文化交流

2013 年度のスポーツ交流では、越野忠則准教授（柔道部男子監督）及び矢﨑利加准教授（柔道部女子監督）の引率のもと学生 11 名が龍仁大學校を訪問し、柔道を通じての交流を行った。また龍仁大學校剣道部金榮學教授、学生 33 名及び他 2 名が来学し、合同練習及び試合等を通じての親善交流を行った。

2013 年度の文化交流では、2009 年 2 月にコンコーディア大学ポートランド校を訪問して以来の英語圏研修として 2014 年 2 月にオーストラリア研修を笠原政志助教の引率ものと学生 13 名が参加し実施した。主な研修内容は、民間の英語学校での英語のレッスン、ホームステイ及びオーストラリア国立スポーツ研究所での宿泊研修であった。参加した学生は、どの研修にも充実した感想を寄せている。なお、国立天津体育学院への中国研修は、参加希望者がいなかった等の理由で本年度も催行を取りやめた。

④ その他

1. 2014 年 日露武道交流年 について

外務省　欧州局ロシア交流室より募集のあった「2014 年日露武道交流年記念事業」に「本学柔道部とクズバス柔道クラブとの柔道を通じての交流」が認定された。

石井兼輔（武道学科長・柔道部部長）の引率のもと柔道部学生 9 名が、2014 年 2 月 15 日（土）から 2 月 21 日（金）の期間、ロシア連邦ケメロヴォ州に渡航し、ケメロヴォ州柔道連盟及びクズバス柔道クラブと交流を行った。

2. オーストリア剣道連盟主催剣道昇段審査会及び剣道普及活動について

全日本剣道連盟公認オーストリア剣道連盟主催の剣道昇段審査会（2014 年 2 月 9 日）に対し、海外研修の授業として渡欧した本学剣道部の教員が審査員として協力している。

昇段審査会は今回で 9 回目となり、毎年、オーストリアをはじめ近隣諸国より、初段から五段まで約 30～40 名ほどが受審している。

また、親善試合として、本学学生を含めた国別対抗戦をオーストリア、ハンガリー、セルビアなどのナショナルチームと行い、終了後は、学生主催の交流懇親会を開催した。

オーストリア（ウィーン）への渡航は 2003 年度から開始され 11 回目となる。渡航期間

中の合同稽古等には、12 か国（オーストリア、ハンガリー、ベルギー、セルビア、チェコ、トルコ、ルーマニア、ウクライナ、ドイツ、スロバキア、スペイン、スロバニア）から多くの参加者が集まり、ヨーロッパでの剣道普及のための一助となっている。

◎ 地域交流関係

① 地域活動への派遣実績

2013 年度は、合計 106 件の地域活動協力依頼に対応した。

② 公開講座

2013 年度の公開講座は、2 講座（文化・体験）8 教室、全 12 日（昨年同様）を実施し、総受講者数延 80 名（昨年度延 136 名）の参加があった。

今年度は体験講座で「音楽体操」と文化講座で「スポーツ報道の裏側」といった新しい教室を実施した。

③ 高大連携の推進

勝浦若潮高等学校（大学授業体験講座「産業社会と人間」）へ 2 名の講師を派遣した。

④ 勝浦スポーツコミュニティ（KSC）の開催

本年度より、文部科学省の「スポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業」の助成を受け、勝浦市からの委託により、器械運動教室、新体操教室、タグラグビー教室を 10 月より実施した。

⑤ 地域活動協力ガイドラインの作成

学内でのコンセンサスを得るために、本学における地域交流の位置づけや地域協力活動に関わる手続き等を示したガイドラインを作成。本学ホームページに掲載した。

（８）広報活動に関する取り組み

① 広報活動について

広報活動は、印刷媒体としての広報誌 WAY、全国高校総体全競技への広告掲載などとともに、大学受験サイト、甲子園高校野球速報ページなどインターネット媒体を通じて広報活動を拡充し、国際武道大学の認知度を高める活動を行った。

従来の看板広告、高校における模擬授業、説明会なども維持した。

（９）安定した財政基盤と経費節減及び省エネに関する取り組み

① 安定した財政基盤に関する取り組み

1. 2013 年度の入学者は 536 名となり、昨年より学生は多くなったが厳しい状況に変わりがない。
2. 資産運用を行っているが、経済情勢の悪化もあり他の収入を含め厳しい状況が続いている。
3. 財政運営の健全化を推進するため、緊急性、必要性、優先順位等を厳しく検討し予算編成を行った。
4. 「教育振興募金」の目標額を 4,000,000 円として協力を呼びかけた。

教育振興募金においては、大学の教育振興を図るため、新入生保護者及び在校生保護

者（すでに寄付のあった保護者を除く）を対象に募集を開始した結果、3,919,600 円の入金があった。2014 年度も、目標額を 4,000,000 円とし協力を呼びかける。

② 経費節減に関する取り組み

1. 節電及び電気料金の節減
   - 適正温度（夏場は 28 度、冬場は 20 度）を設定し協力を願った。
   - 廊下、教室等の電気を間引きし使用していない教室、昼休みの教室等の電気、空調をこまめに消し節電に努めた。
   - 料金の安い JX 日鉱日石エネルギーとの契約を更新している。
2. 水道料金の節減

   構内に井戸を掘り高度膜ろ過システムを利用した浄水施設を設置し、学内の給水を行っている。これにより水道使用量の 62%をまかなっている。
3. コピー用紙の節減

   2009 年から実施したコピー用紙の使用・保管方法が定着してきた。

   運営委員会及び教授会の資料をデジタル化した。

(10) 人事制度に関する取り組み

① 教員に対する人事制度

1. 教員募集（2014 年 4 月採用）について、公募を行った。公募は発育発達・健康づくりを主とする領域（1 名）、体育科教育・保健科教育を主とする領域（2 名）及びコンディショニングを主とする領域（1 名）と併せて実技（器械運動または陸上競技）又は教養教育・リメディアル教育を担当できる人材について行った。採用試験の結果 3 名（各領域 1 名ずつ）の採用が了承され、常務理事会の議を経て採用が決定した。
2. 任期制助手として契約更新（1 名）及び採用（1 名）が人事部会において了承され、常務理事会の議を経て採用が決定した。
3. 特任教員（教授）として 2 名、特任教員（准教授）として 1 名、特任教員（助教）として 3 名、合計 6 名の契約更新（2 名）および採用（4 名）が人事部会において了承され、常務理事会の議を経て採用が決定した。
4. 昇任人事について自己推薦者 2 名を審議し、業績及びクラブ指導等を考慮し承認が了承され、常務理事会の議を経て決定した。
5. 新カリ及び旧カリの科目担当者変更及び非常勤講師の委嘱を決定した。

② 職員に対する人事制度

組織内外の変化に的確に対応するために、そこで働く職員が本来持っている創造性・意欲を引き出す背策が必要である。

職員の意欲を高めるために各職員の組織への貢献に応じて、“成果を評価する”仕組みとして「人事考課制度」「目標による管理制度」の導入を取り組むべき検討を進めている。

(11) 後援会及び同窓会との連携に関する取り組み

① 後援会との連携

1. 毎年、全国 11 支部にて実施している支部総会に、大学を代表して学長他役職教職員が

出席し、大学の現状等の説明を行っている。
また、出席されている保護者の数に応じた教員を派遣し個人面談を実施している。
なお、全国で開催された支部総会後の反省会や後援会の全国役員会などに副理事長をはじめ学長役職教員が多数参加し意見交換や懇談会を行った。

2. キャリア支援取り組みの一部として、保護者が講師として講演を行う「オヤジ・オフクロのセミナー」を開催している。
3. 後援会より本学学友会に対して、教育助成金として 400 万円が贈呈された。
4. 創立 30 周年記念募金として今年度は 250 万円の入金があった。
5. 黒潮祭に後援会として参加いただき、後援会オリジナルグッズや全国特産品販売を行っている。なお、収益金は上記教育助成金の一部としている。

② 同窓会との連携

1. 同窓会では、在学生に対する奨学金事業を実施しているが、2013 年度においては、応募学生がいなかった。(貸与月額 2 万円)
2. 同窓会オリジナルグッズを作成し、学生食堂内の売店で販売している。
3. 卒業生の中で教員をしている方を中心に教職委員会を組織し、学生の募集に対する協力をいただいている。

(12) 創立 30 周年事業の推進

創立30周年記念事業を下記の通り実施した。

① 記念式典・祝賀会

1. 創立30周年記念式典
   ◆日程：2013年10月19日（土）
   ◆場所：日本武道館研修センター　大道場
   ＊記念式典・祝賀会の出席者　500 名

② 教育・研究の充実

学生の利便性の向上やトータルな学生支援を視野に入れたシステム開発と情報環境の整備を行う。

1. 学生支援システムの構築
   ・Web 履修システム及び学生支援システムの構築
   ・サーバー機能アップのためのポータルサーバーの入れ替え
   ・1 号館 2 階、4 階、5 階の教室に無線 LAN 設備を設置
2. 三次元動作システムの購入
3. 学習達成度自己評価システム（ポートフォリオシステム）の構築

③ 施設設備の環境整備事業

基本設計及び実施設計については、計画概要に基づき実施した。

1. 実施計画の概要について
   ア.（仮称）創立30周年記念 10号館新築工事（約3,120㎡）
   ・学生食堂を新築　1,200㎡程度（600席程度）
   ・スポーツラウンジの設置

・メディアセンターの設置
・ラーニングセンターの設置
・栄養相談、売店、カフェの設置

イ．4号館1階学生食堂については厨房及び食堂移設後のスペースを改修
・旧厨房は、閉架書庫1万9千冊収容、貴重書庫に改修
・旧食堂は、教務課・学生課・就職課・国際室など学生支援に係わる事務を行える場所に改修

ウ．松前記念館は、1号館1階に移設して、常設展示及び企画展示などを行うスペースを拡大し、松前重義博士の歴史、資料の展示並びに大学の沿革や活動内容などを紹介する施設に改修

エ．クラブ棟の建替え工事（約615㎡）
・現クラブ棟の老朽化による危険防止のため建替える
・非常勤のクラブ指導者室やミーティング室の設置

オ.学生駐輪場及び道路・外構整備工事
・構内の交通環境の整備
・構内のバイク動線に配慮した利便性の高い駐輪場の整備

2. 新築・改修工事の実施について

2013 年 12 月 13 日（金）常務理事会において、新築・改修工事については、建設業界の職人不足及び建設費の高騰により工事を延期することとした。

なお、当面の対応としては、学生食堂の厨房機器の交換やクラブ棟の改修等を検討する。

④ 学友会活動の支援事業

若潮杯争奪武道大会、各クラブが実施している交流戦や卒業生関係の大会に「創立 30 周年記念大会」の冠をつけ実施した。

・国際武道大学弘毅会第 17 回高等学校剣道大会・第 8 回中学校剣道大会
2013 年 8 月 18 日（日）
・若潮杯争奪武道大会
2013 年 12 月 26 日（木）～ 27 日（金）
・第 8 回武大杯柔道大会
2014 年 3 月 27 日（木）

⑤ 大学の歴史関連事業

創立 20 周年記念史移行をベースに、これまでの本学の活動記録及び教育・研究で培ってきた「知の財産」をデジタルアーカイブとして保存する。

2013 年度は、機関リポジトリの準備を整えた。

⑥ 記念募金事業

創立30周年記念事業への募金は、卒業生、在校生の保護者、教職員や企業など関係各位にお願いした。

1. 募金目的

ア．教育・研究の充実及び施設・設備の拡充

イ．学生等に対する奨学金・研究制度の確立

ウ．学生・教職員等の国際交流活動への支援

2. 募金目標額：5 千万円

3. 募集期間：2012 年から 3 年間

創立 30 周年記念募金の 2013 年度の目標達成率は、目標額に対し 98.1%であった。

２．中長期計画に基づく教育施設・設備に関する取り組み

厳しい財政状況の中、必要不可欠となっている次の主な施設・設備の整備を実施した。

・屋内野球練習場建設工事

・国際交流会館外壁改修工事

・サッカー場人工芝張り替え改修工事

・国際交流会館空調機改修工事

・図書管理システムの入れ替え

・浄化槽沈殿槽改修工事

・2 号館剣道場床改修工事

・健康管理センター空調設備改修工事

３．入試の状況

2014 年度入試結果集計

	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	備　考
大学院 武道･ｽﾎﾟｰﾂ研究科	10	8（2）	8（2）	7（2）	7（2）	
体育学部						
武道学科	80	185（31）	184（31）	111（17）	91（16）	
体育学科	360	659（116）	654（86）	567（74）	394（46）	
ｽﾎﾟｰﾂﾄﾚｰﾅｰ学科	—	—	—	—	—	2013 年度から募集停止
国際ｽﾎﾟｰﾂ文化学科	—	—	—	—	—	2013 年度から募集停止
体育学部計	440	844（118）	838（117）	678（91）	485（62）	
別科 武道専修課程	20	12(6)	12(6)	9（3）	9（3）	
合　　計	470	864(126)	858（125）	694(98)	501(67)	

（　）は、女子内数

４．進学・就職等の状況

2013年度進路(就職)決定状況調査【最終】

学　　科			武　道	体　育	ｽﾎﾟｰﾂﾄﾚｰﾅｰ	国際スポーツ文化	計	昨年最終
卒業者数（A）			119（ 22 ）	215（ 19 ）	67（ 29 ）	63（ 8 ）	464（ 78 ）	459（ 85 ）
留年者数			10（ 0 ）	17（ 1 ）	3（ 1 ）	9（ 0 ）	39（ 2 ）	50（ 3 ）
在学者数			129（ 22 ）	232（ 20 ）	70（ 30 ）	72（ 8 ）	503（ 80 ）	509（ 88 ）
就職状況	企　業		46（ 10 ）	108（ 9 ）	32（ 16 ）	35（ 6 ）	221（ 41 ）	221（ 38 ）
	団　体		0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）
	医療・福祉施設等		7（ 5 ）	4（ 2 ）	10（ 7 ）	4（ 1 ）	25（ 15 ）	27（ 9 ）
	公務員	一　般	0（ 0 ）	2（ 0 ）	1（ 0 ）	0（ 0 ）	3（ 0 ）	1（ 1 ）
		警　察	18（ 1 ）	7（ 0 ）	1（ 1 ）	1（ 0 ）	27（ 2 ）	21（ 2 ）
		消　防	2（ 0 ）	2（ 0 ）	2（ 0 ）	2（ 0 ）	8（ 0 ）	6（ 0 ）
		刑　務	4（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	4（ 0 ）	1（ 0 ）
		自衛隊	1（ 0 ）	3（ 0 ）	0（ 0 ）	2（ 0 ）	6（ 0 ）	7（ 0 ）
	臨　時		2（ 0 ）	7（ 0 ）	1（ 0 ）	0（ 0 ）	10（ 0 ）	12（ 5 ）
	自　営		1（ 0 ）	2（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	3（ 0 ）	8（ 0 ）
	そ の 他		0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）
	教職	公立 専任	0（ 0 ）	1（ 0 ）	0（ 0 ）	1（ 0 ）	2（ 0 ）	1（ 0 ）
		公立 講師	8（ 0 ）	16（ 1 ）	2（ 2 ）	2（ 0 ）	28（ 3 ）	27（ 4 ）
		私立 専任	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）
		私立 講師	1（ 0 ）	3（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	4（ 0 ）	1（ 0 ）
		その他（小学校等）	2（ 0 ）	20（ 3 ）	3（ 0 ）	6（ 1 ）	31（ 4 ）	20（ 8 ）
	就職者計（B）		92（ 16 ）	175（ 15 ）	52（ 26 ）	53（ 8 ）	372（ 65 ）	353（ 67 ）
進学状況	大学院		1（ 0 ）	2（ 1 ）	3（ 0 ）	2（ 0 ）	8（ 1 ）	3（ 1 ）
	大学		1（ 1 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	1（ 1 ）	5（ 0 ）
	短大		0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）
	研究生等		1（ 0 ）	9（ 1 ）	3（ 0 ）	1（ 0 ）	14（ 1 ）	18（ 4 ）
	専門学校等		3（ 0 ）	3（ 0 ）	3（ 2 ）	1（ 0 ）	10（ 2 ）	15（ 1 ）
	留学		0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）
	進学者計(C)		6（ 1 ）	14（ 2 ）	9（ 2 ）	4（ 0 ）	33（ 5 ）	41（ 6 ）
未決定者			0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）	3（ 0 ）	3（ 0 ）	2（ 2 ）
教員･公務員志望等（D）			21（ 5 ）	26（ 2 ）	6（ 1 ）	3（ 0 ）	56（ 8 ）	63（ 10 ）
就職希望者就職率 B÷〔A－(C＋D)〕			100.0%	100.0%	100.0%	94.6%	99.2%	99.4%
進路決定率 （B＋C）÷A			82.4%	87.9%	91.0%	90.5%	87.3%	85.8%

（　）は、女子内数

５．表彰

（１）2013 年度 松前スポーツ・文化賞

特別賞（2 名）

No.	氏　名	所属団体	大　会　名	種別	順　位
1	荒木　祐司	ﾊﾟﾜｰﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	2012 年 第 39 回全日本学生ﾊﾟﾜｰﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ選手権大会（74kg 級）	個人	3 位
			2012 年 第 93 回関東学生ﾊﾟﾜｰﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ選手権大会（74kg 級）	個人	優勝
			2013 年 第 95 回関東学生ﾊﾟﾜｰﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ選手権大会（74kg 級）	個人	優勝 最優秀選手賞
			2013 年 第 96 回関東学生ﾊﾟﾜｰﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ選手権大会（74kg 級）	個人	優勝 最優秀選手賞
2	竹澤　康輝	ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ	2012 年 第 38 回全日本ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ選手権大会 男子ﾋﾞｰﾁﾌﾗｯｸﾞｽ	個人	優勝
			2012 年 第 27 回全日本学生ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ選手権大会 男子ﾋﾞｰﾁﾌﾗｯｸﾞｽ	個人	優勝
			2013 年 第 26 回全日本ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ種目別選手権大会 男子ﾋﾞｰﾁﾌﾗｯｸﾞｽ	個人	優勝
			2013 年 第 28 回全日本学生ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ選手権大会 男子ﾋﾞｰﾁﾌﾗｯｸﾞｽ	個人	優勝
			2013 年 第 39 回全日本ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ選手権大会 男子ﾋﾞｰﾁﾌﾗｯｸﾞｽ	個人	3 位

個人の部　最優秀賞（3 名）

No.	学年	学科	氏　名	学友会所属団体	成績	大会名および種目
1	2	P	増野　元太	陸上競技	2 位	天皇賜杯第 82 回日本学生陸上競技対校選手権大会　110mH
					2 位	第 68 回国民体育大会　110mH
					6 位	第 97 回日本陸上競技選手権大会　110mH
					3 位	2013 年日本学生陸上競技個人選手権大会
					3 位	秩父宮賜杯第 53 回実業団・学生対抗陸上競技大会　110mH
2	3	P	但野　安菜	ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ	優勝	第 28 回全日本学生ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸ選手権大会　ﾋﾞｰﾁﾌﾗｯｸﾞｽ
					優勝	第 28 回全日本学生ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸ選手権大会　ﾋﾞｰﾁｽﾌﾟﾘﾝﾄ
					優勝	第 26 回全日本ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸ種目別選手権大会　ﾋﾞｰﾁﾌﾗｯｸﾞｽ
					3 位	ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｻｰﾌﾚｽｷｭｰﾁｬﾚﾝｼﾞ 2013（日本代表）
3	4	P	竹澤　康輝	ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ	優勝	第 28 回全日本学生ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸ選手権大会　ﾋﾞｰﾁﾌﾗｯｸﾞｽ
					優勝	第 26 回全日本ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸ種目別選手権大会　ﾋﾞｰﾁﾌﾗｯｸﾞｽ
					3 位	第 38 回全日本ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ選手権大会 女子ﾋﾞｰﾁﾌﾗｯｸﾞｽ
					3 位	ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｻｰﾌﾚｽｷｭｰﾁｬﾚﾝｼﾞ 2013（日本代表）

個人の部　優秀賞（9 名）

No.	学年	学科	氏名	学友会所属団体	成績	大会名および種目
1	2	B	坂口　仁美	柔道（女子）	ﾍﾞｽﾄ8	平成 25 年度全日本学生柔道体重別選手権大会　48 kg級
					3 位	平成 25 年度全日本ｼﾞｭﾆｱ柔道体重別選手権大会　44kg 級
					優勝	2013 年ｱｼﾞｱｼﾞｭﾆｱ・ﾕｰｽ柔道選手権大会　44kg 級
					優勝	2013 ﾛｼｱｼﾞｭﾆｱ柔道国際大会
2	2	B	ﾌｧﾝﾃﾞﾙ ｳｧｳﾀﾞ ｻﾖ	剣道（女子）	2 位	第 25 回ﾖｰﾛｯﾊﾟ剣道選手権大会
					3 位	第 25 回ﾖｰﾛｯﾊﾟ剣道選手権大会（団体戦ﾒﾝﾊﾞｰ）
					3 位	第 2 回ｽﾎﾟｰﾂｱｺｰﾄﾞ武術大会
3	3	B	大森　三華	弓　道	2 位	第 37 回女子東西学生弓道選抜大会（団体戦ﾒﾝﾊﾞｰ）
					優勝	第 45 回関東学生弓道選手権大会秋季ﾘｰｸﾞ戦（個人戦）
4	1	B	平田　　楽	少林寺拳法	3 位	第 47 回少林寺拳法全日本学生大会　男子有段単独演武の部
5	4	P	荒木　祐司	ﾊﾟﾜｰﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	優勝	第 95 回関東学生ﾊﾟﾜｰﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ選手権大会　74kg 級
					優勝	第 96 回関東学生ﾊﾟﾜｰﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ選手権大会　74kg 級
6	4	S	髙瀬　　怜	なぎなた	3 位	第 47 回東日本学生なぎなた大会　有段の部
					8 位	第 68 回国民体育大会　演技競技
7	3	I	亀ノ上僚仁	ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ	2 位	第 28 回全日本学生ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ選手権大会　ｻｰﾌｽｷｰﾚｰｽ
					3 位	第 28 回全日本学生ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ選手権大会　ｵｰｼｬﾝﾏﾝ
8	4	S	加藤　愛理	キンボール	2 位	第 7 回ｷﾝﾎﾞｰﾙｽﾎﾟｰﾂﾜｰﾙﾄﾞｶｯﾌﾟ 2013（日本代表）
9	3	S	磯野　千穂	キンボール	2 位	第 7 回ｷﾝﾎﾞｰﾙｽﾎﾟｰﾂﾜｰﾙﾄﾞｶｯﾌﾟ 2013（日本代表）

団体の部　優秀賞（2 団体）

No.	学友会所属団体名	成 績	大　会　名　及　び　種　目
1	少林寺拳法部	出場	2013 少林寺拳法世界大会 in Osaka, Japan
2	ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ部（男子）	男子総合 2 位	第 28 回全日本学生ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ選手権大会
		優勝	第 28 回全日本学生ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞ選手権大会　男子ﾚｽｷｭｰﾁｭｰﾌﾞﾚｷｭｰ
		3 位	第 26 回全日本ﾗｲﾌｾｰﾋﾞﾝｸﾞﾌﾟｰﾙ選手権大会　男子 4×50m ﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ

団体の部　功労賞（1 団体）

No.	学友会所属団体名	成 績	大　会　名　及　び　種　目
1	学友会学生総務委員会		年間を通して学友会活動に貢献した

（2）2013 年度学業成績優秀者表彰

学業成績優秀者（4 年間）

No.	学　科	氏　名	選　考　理　由
1	武道学科	榎本 貴丸	礼儀正しく、誠実で明朗活発な人物である。 文武両道に励み、成績優秀でクラブ活動においても下級生への指導や、試合時のビデオ撮影等チームのサポート役として尽力している。 また、演習活動においても、探究心が旺盛で研究熱心である。 以上の内容から武道学科における奨励金受給者に相応しい学生と判断した。
2	体育学科	大竹 正人	高校保健体育科教員になるために本学に入学し、授業等にも積極的に取り組んでいた。 ゼミ活動の一環で小学校現場での実践に触れたことなどから、小学校教諭に進路を変更した。本学では数少ない現役での教員採用試験合格者である。 また、真面目で向上心があり、将来性を感じさせるものがある学生である。 以上の内容から体育学科における奨励金受給者に相応しい学生と判断した。
3	ｽﾎﾟｰﾂﾄﾚｰﾅｰ学科	加藤 愛理	学業成績にとどまらず、クラブ活動では、キンボール部に所属し、日本代表としてワールドカップに出場し銀メダルを獲得した。 また、周囲の学生たちからも一目置かれ、種々のレポート作成や地域の健康教室事業においてもリーダー的な存在であった。 以上の内容からスポーツトレーナー学科における奨励金受給者に相応しい学生と判断した。
4	国際ｽﾎﾟｰﾂ文化学科	志賀 優規	勉強熱心でまじめな学生である。 地域の健康教室事業にもスタッフとして積極的に参加し、指導法を後輩に伝授するなど面倒見もよい。 また、3 年次の研究実験補助をきっかけとして、将来はバイオメカニクスを専門とした研究者になることを目指し、卒業後は大学院への進学を予定している。 以上の内容から国際スポーツ文化学科における奨励金受給者に相応しい学生と判断した。

学業成績優秀者（2012 年度）

No.	学年	学科	氏　名
1	2 年	B	阿部　優美
2	2 年	B	権代　優太
3	2 年	P	鈴木　大貴
4	2 年	P	望月　雅城
5	1 年	P	髙橋　操子
6	1 年	S	原　　拓也
7	1 年	I	嶋村　　洸

No.	学年	学科	氏　名
8	3 年	B	菅沼　祐介
9	3 年	B	中平　亜里
10	3 年	P	岩間　友汰
11	3 年	P	小堤　英梨
12	3 年	P	青山　弘輝
13	3 年	S	窪川　絵美

No.	学年	学科	氏　名
14	4 年	B	吉川　典枝
15	4 年	B	赤澤　杏菜
16	4 年	P	遠畑　雄大
17	4 年	P	坂下　慎弥
18	4 年	P	大竹　正人
19	4 年	S	堀場　里穂
20	4 年	I	原科　雄斗

Ⅲ　財務の概要

１．2013 年度決算について

学校法人国際武道大学の 2013 年度決算は、5 月 16 日に開催された理事会及び評議員会において承認されました。

当期は、経済情勢、その他の社会的事情を考慮し、入学金・学費の据え置きを行いました。

〇資金収支計算書

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度における教育研究等の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を科目別に明らかにし、かつ、支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

収入の部につきましては、特に「補助金収入」「前受金収入」が予算を上回りました。

支出の部につきましては、特に「人件費支出」「教育研究経費支出」「管理経費支出」が予算を下回り「施設関係支出」が予算を上回りました。

資金収支計算書

2013 年 4 月 1 日から

2014 年 3 月 31 日まで

（単位：百万円）

収入の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
学生生徒等納付金収入	2,665	2,665	0
手数料収入	21	21	0
寄付金収入	30	30	0
補助金収入	146	171	△ 25
資産運用収入	62	63	△ 1
事業収入	7	8	△ 1
雑収入	104	106	△ 1
前受金収入	411	433	△ 22
その他の収入	1,034	1,034	0
資金収入調整勘定	△ 596	△ 617	21
前年度繰越支払資金	3,446	3,446	
収入の部合計	7,329	7,360	△ 30

支出の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
人件費支出	1,452	1,432	21
（うち教職員等人件費支出）	1,327	1,308	18
（うち退職金支出）	126	124	2
教育研究費支出	706	674	32
管理経費支出	329	297	31

施設関係支出	882	888	△ 6
設備関係支出	73	69	4
資産運用支出	515	511	4
その他の支出	98	98	0
資金支出調整勘定	△ 224	△ 219	△ 5
次年度繰越支払資金	3,498	3,610	△112
支出の部合計	7,329	7,360	△ 30

（注）表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が一致しない場合がある。

以下の表についても同様。

○消費収支計算書

「消費収支計算書」は、当該会計年度における消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示すものです。

具体的には帰属収入（学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金などの法人に帰属する収入で、借入金、前受金収入など負債とならない収入）から、基本金組入額（校地、校舎、機器備品、図書などの取得、或いはそのために借り入れた借入金の返済、将来取得のための引当金などの資本的支出に充てる額）を控除して、消費支出に充てることのできる消費収入（帰属収入－基本金組入額）を算出し、この「消費収入」と「消費支出」との収支均衡状況を表したものです。

「基本金組入額」とは、学校法人が教育研究等の諸活動の計画に基づき必要な資産（校地、校舎、機器備品、図書、現金・預金など）を継続的に保持するために維持すべきものとして帰属収入のうちから組み入れた金額です。

基本金には第１号基本金から第４号基本金まで４種類あり、学校法人会計基準に定められています。

第１号基本金：規模の拡大や設備の充実のために支出した金額。

第２号基本金：規模拡大や設備の充実のために将来取得する固定資産の取得に充てる金額。

第３号基本金：基金として継続に保持し、その運用果実を奨学基金に充てる。

第４号基本金：経常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣が定める額。

消費収入の部につきましては、特に「補助金」が予算を上回りました。

「寄付金」には資金収支の寄付金のほかに、図書と機器備品の現物寄付が含まれています。また、「雑収入」には米ドルを日本円に替えた際の為替差額分が含まれています。

消費支出の部につきましては、特に「人件費」「教育研究経費」「管理経費」が予算を下回りました。

「人件費」「教育研究経費」「管理経費」について、資金収支での支出金額のほかに、「人件費」では退職給与引当金繰入額が、また「教育研究経費」「管理経費」にはそれぞれ減価償却額が計上されています。

当期の帰属収支差額（帰属収入－消費支出）は、174 百万円の収入超過となり、基本金の組入を 761 百万円行った結果、588 百万円の消費支出超過となり繰越消費収入超過額が前年度に比べ減少しました。

消費収支計算書

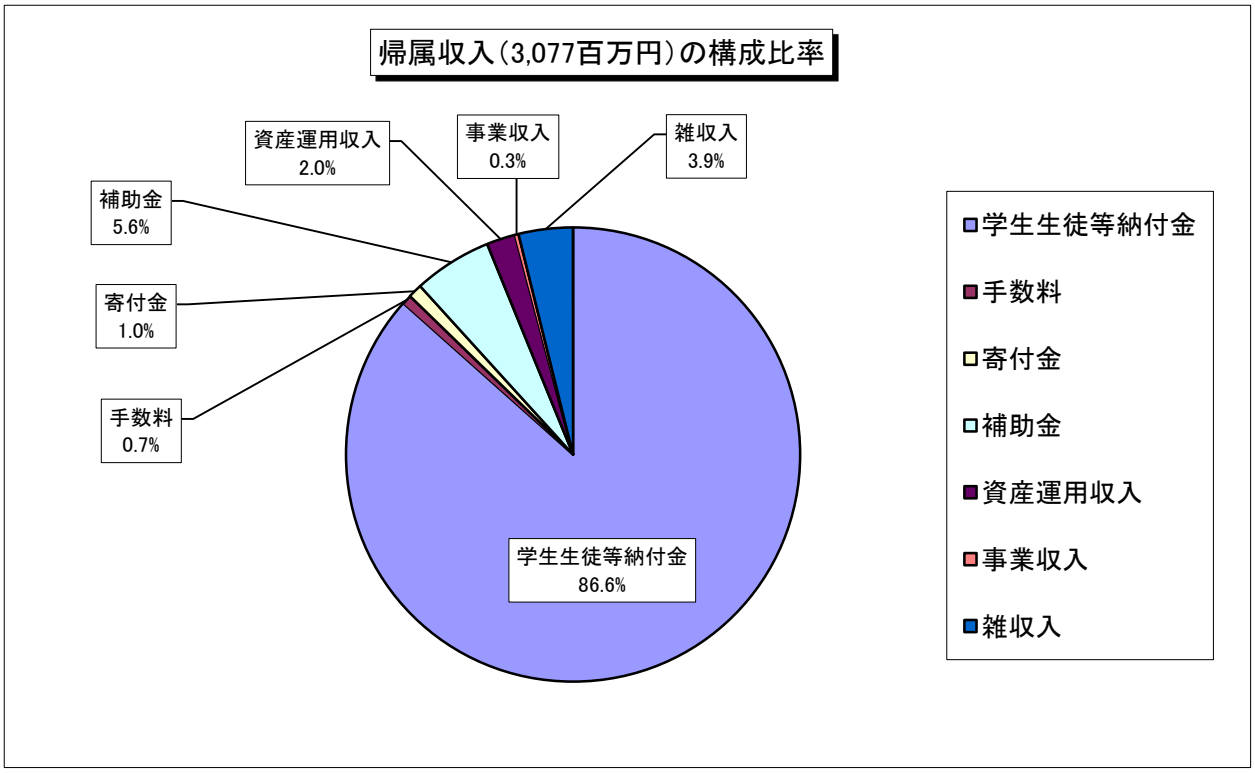
2013 年 4 月 1 日から

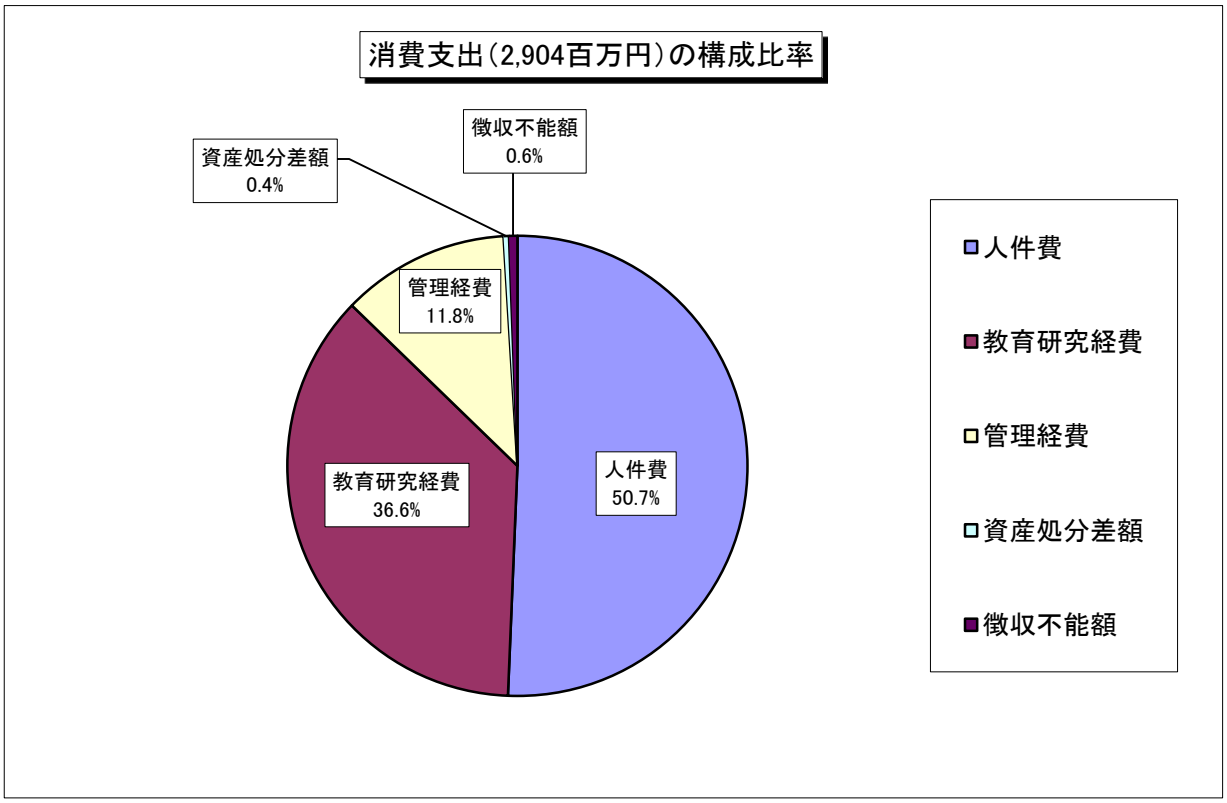
2014 年 3 月 31 日まで

（単位：百万円）

消費収入の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
学生生徒等納付金	2,665	2,665	0
手数料	21	21	0
寄付金	30	31	0
補助金	146	171	△ 25
資産運用収入	62	63	△ 1
事業収入	7	8	△ 1
雑収入	117	119	△ 1
帰属収入合計	3,048	3,077	△ 29
基本金組入額合計	△ 761	△ 761	1
消費収入の部合計	2,287	2,316	△ 29

消費支出の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
人件費	1,488	1,471	17
（うち教職員人件費等）	1,356	1,339	18
（うち退職給与引当金繰入額）	132	132	△ 1
教育研究経費	1,099	1,063	36
（うち減価償却額）	392	389	4
管理経費	374	342	32
（うち減価償却額）	45	45	0
資産処分差額	11	11	0
徴収不能額	20	17	3
消費支出の部合計	2,991	2,904	87
当年度消費支出超過額	704	588	
前年度繰越消費収入超過額	3,695	3,695	
翌年度繰越消費収入超過額	2,991	3,107	


帰属収入（3,077百万円）の構成比率
資産運用収入
2.0%
事業収入
0.3%
雑収入
3.9%
補助金
5.6%
寄付金
1.0%
手数料
0.7%
学生生徒等納付金
86.6%
学生生徒等納付金
手数料
寄付金
補助金
資産運用収入
事業収入
雑収入


消費支出（2,904百万円）の構成比率
資産処分差額
0.4%
徴収不能額
0.6%
管理経費
11.8%
教育研究経費
36.6%
人件費
50.7%
人件費
教育研究経費
管理経費
資産処分差額
徴収不能額

○貸借対照表

「貸借対照表」は、期末時点での財産の状態を明らかにしたものです。

当期の総資産は 26,477 百万円で、自己資金（基本金＋消費収支差額）は 25,126 百万円となりました。

貸借対照表

2014 年 3 月 31 日

（単位：百万円）

資産の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定資産	22,742	22,489	253
有形固定資産	12,268	11,739	529
土地	5,673	5,673	0
建物・構築物	5,849	5,153	695
教育研究用機器備品	272	284	△ 12
図書	409	405	4
その他	65	223	△ 159
その他の固定資産	10,474	10,750	△ 276
有価証券	1	1	0
特定資産	10,396	10,662	△ 266
その他	78	88	△ 10
流動資産	3,735	3,690	46
現金預金	3,610	3,446	164
その他	126	244	△ 118
資産の部合計	26,477	26,179	299

負債の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定負債	652	612	39
退職給与引当金	652	612	39
流動負債	700	614	85
前受金	433	478	△ 45
その他	267	136	130
負債の部合計	1,351	1,227	125

基本金の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
第1号基本金	20,490	19,737	753
第3号基本金	1,347	1,338	9
第4号基本金	182	182	0
基本金の部合計	22,019	21,257	761

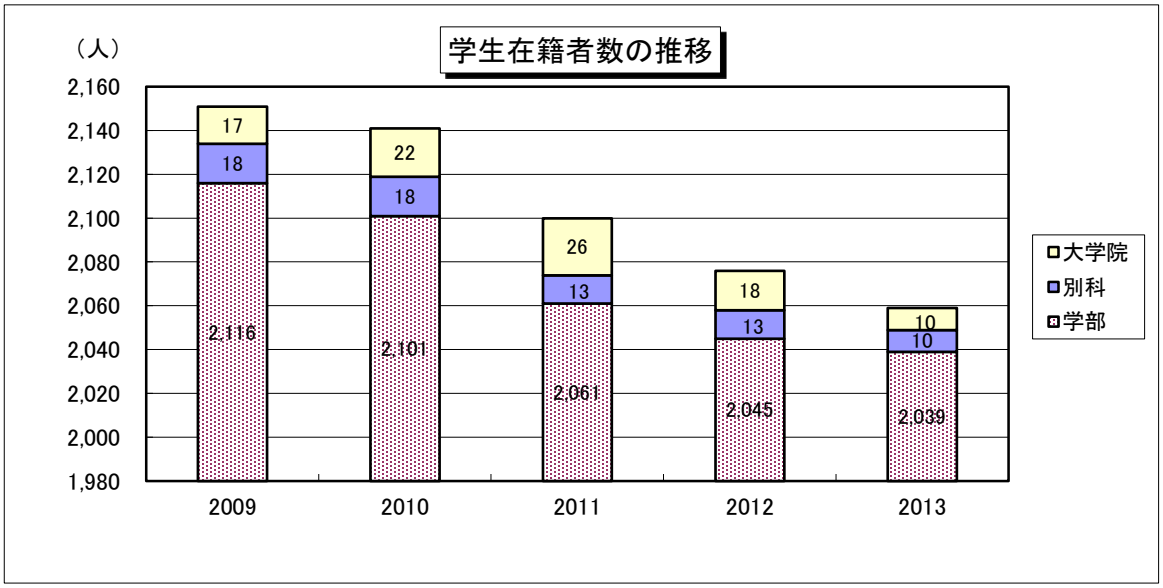
消費収支差額の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
翌年度繰越消費収入超過額	3,107	3,695	△ 588
消費収支差額の部合計	3,107	3,695	△ 588
科　目	本年度末	前年度末	増　減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	26,477	26,179	299

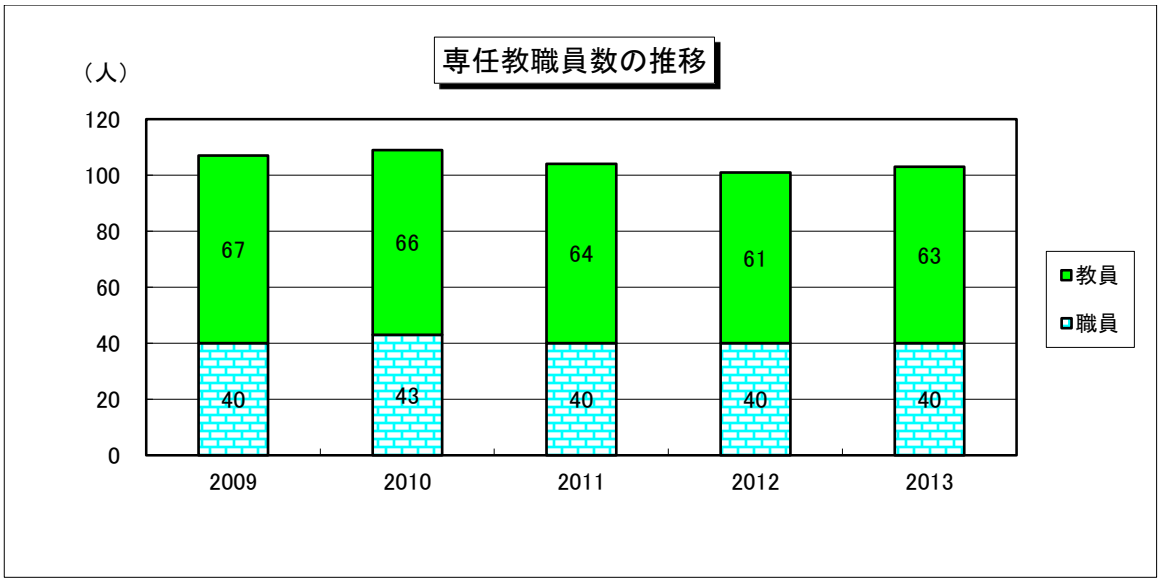
注記　減価償却額の累計額　8,009 百万円

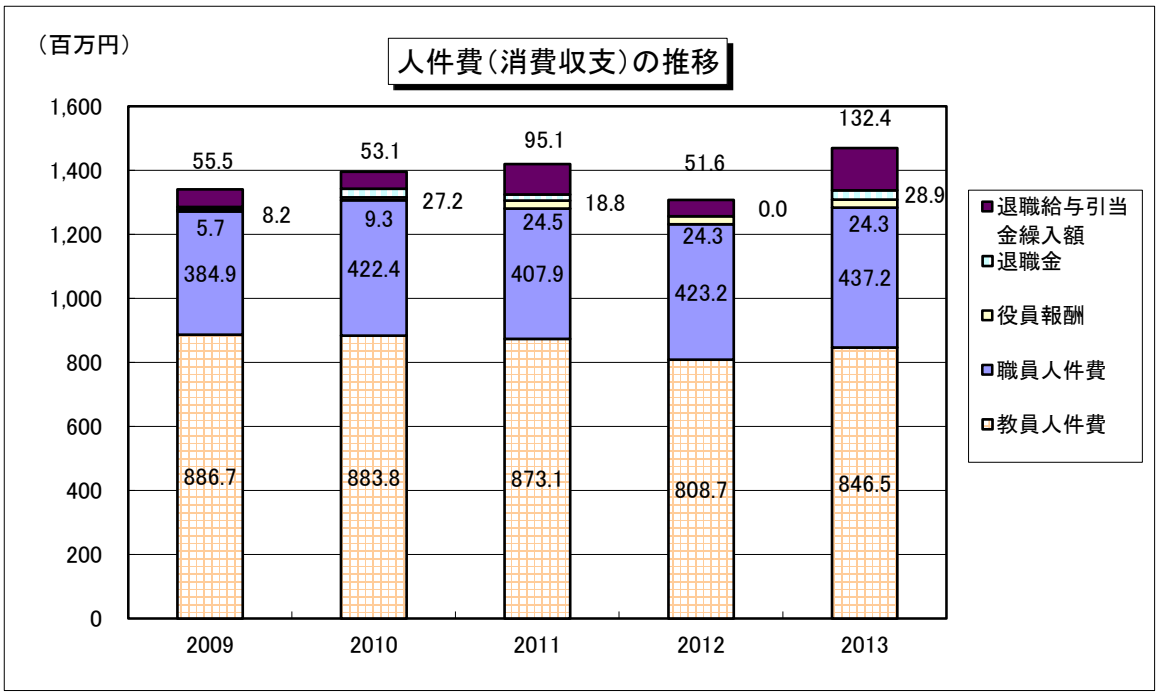
基本金未組入額　　1 百万円

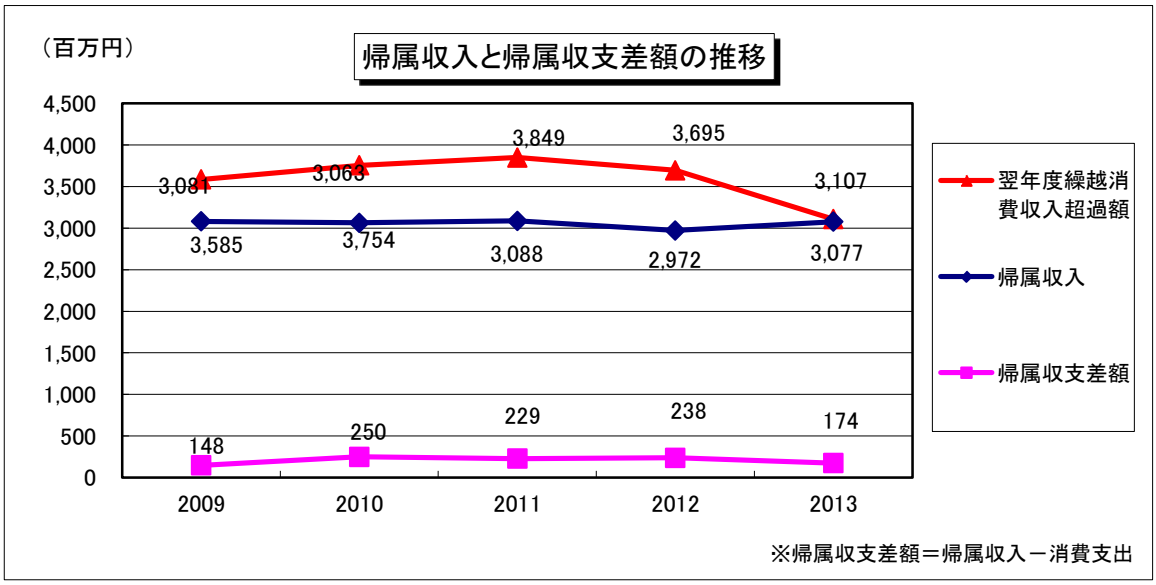
2．財務状況等の経年比較

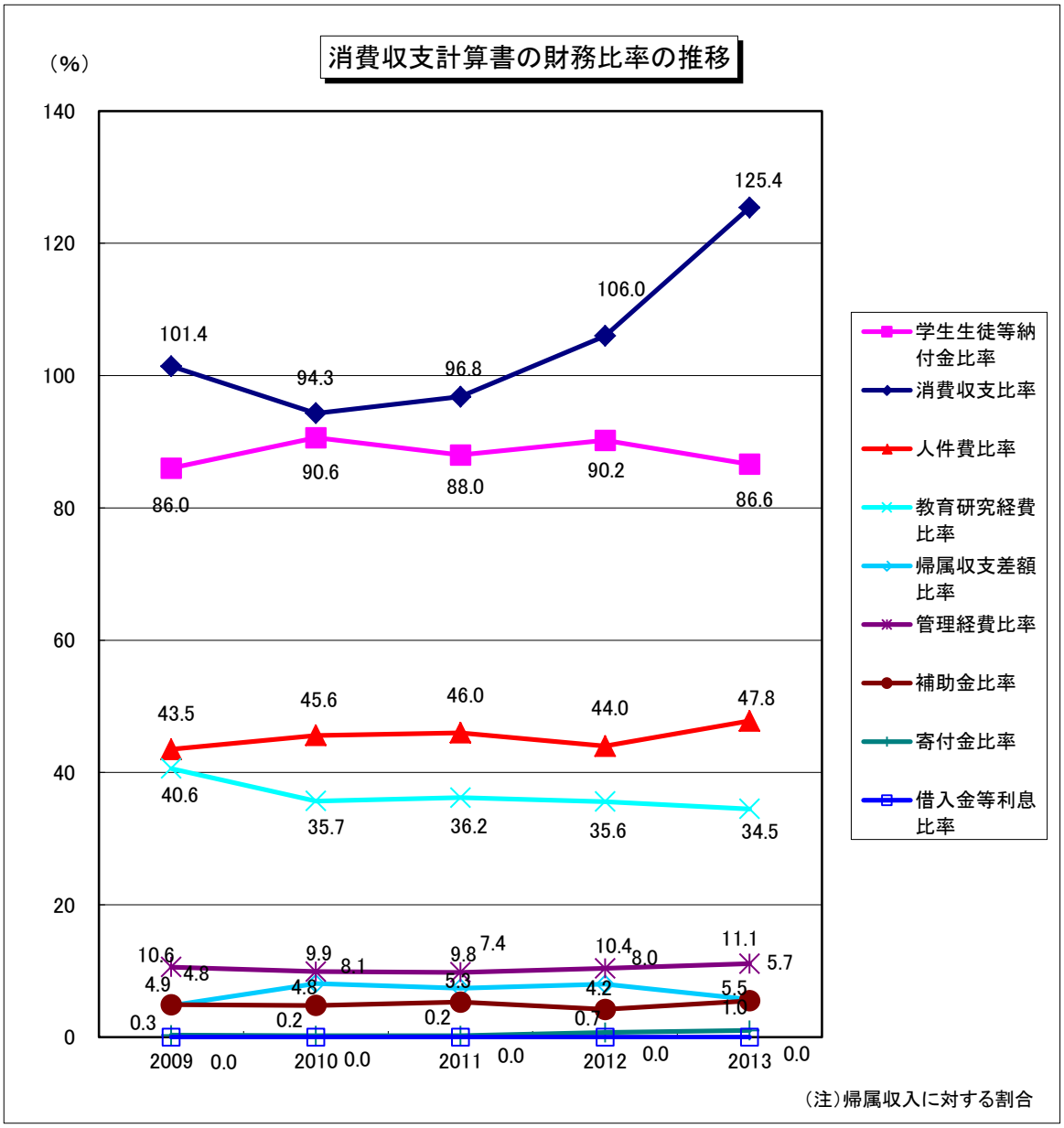
○学生数・教職員数・財務比率などの推移

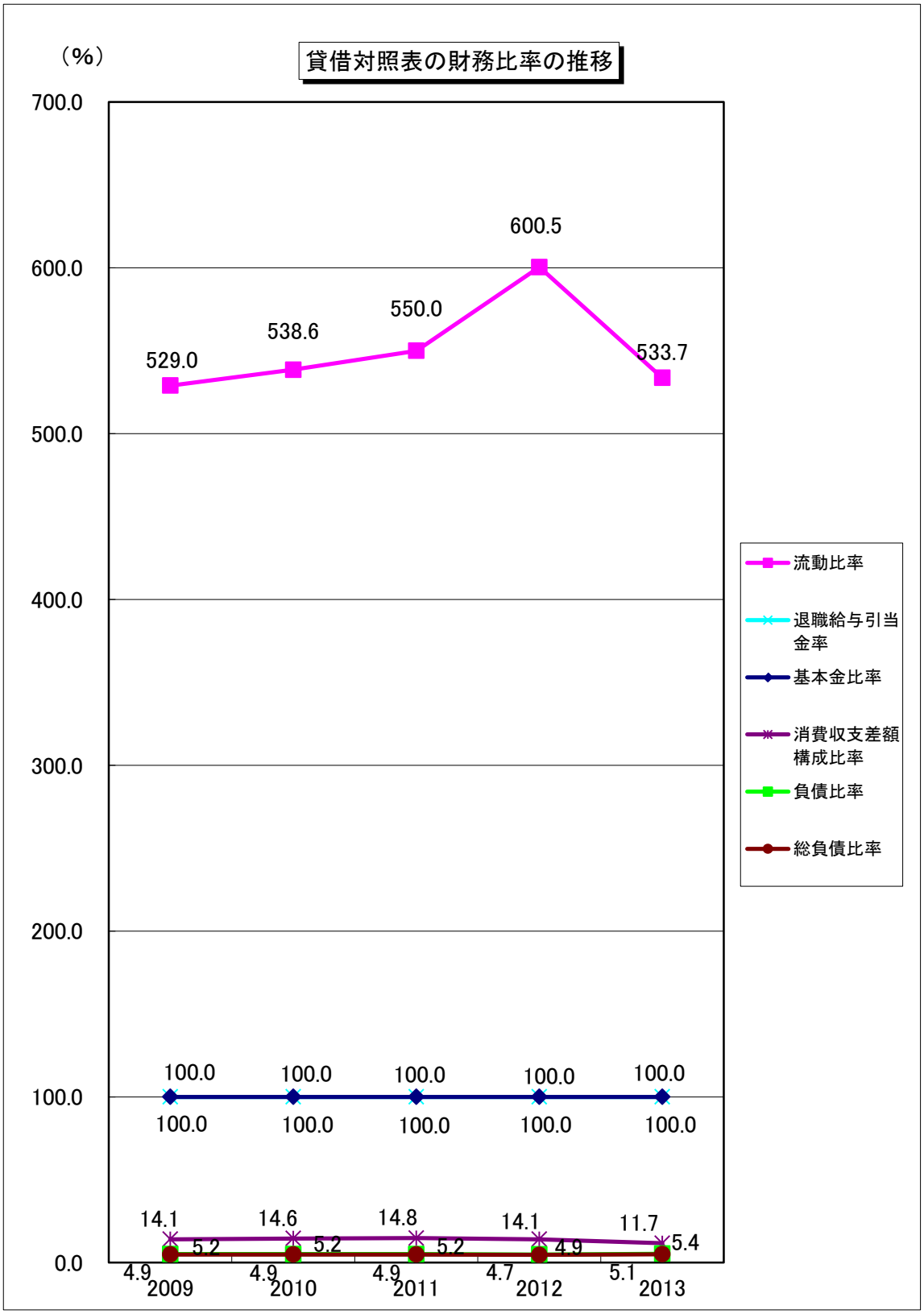


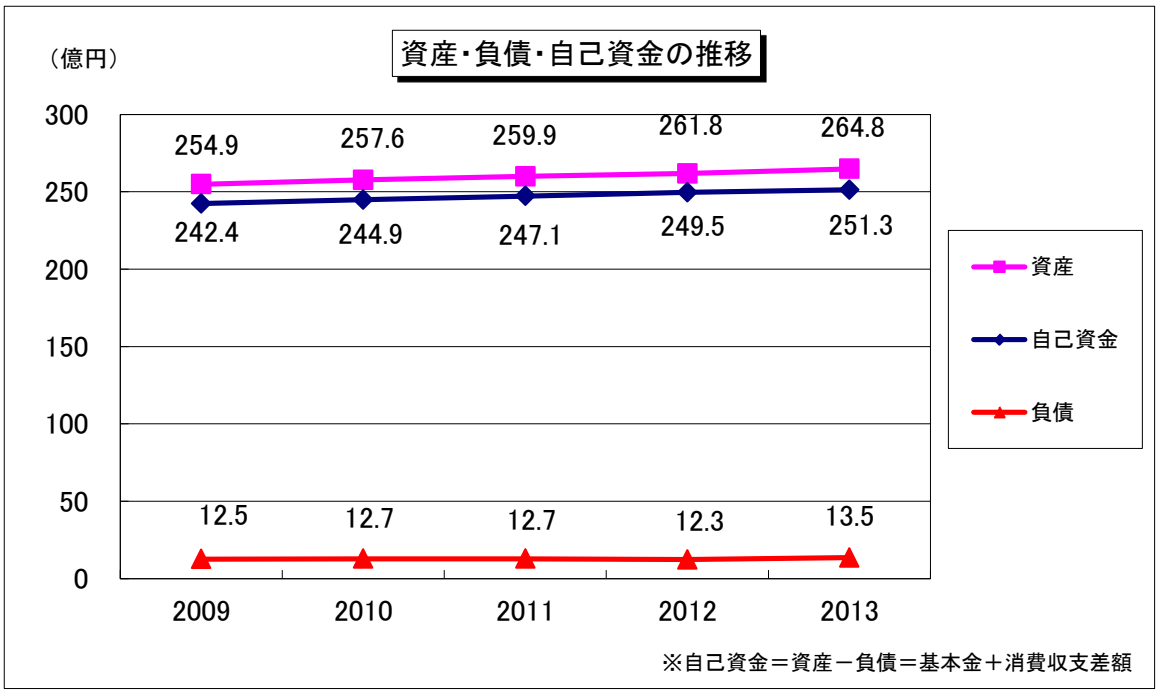



（百万円）
人件費（消費収支）の推移
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
55.5
8.2
5.7
384.9
886.7
53.1
27.2
9.3
422.4
883.8
95.1
18.8
24.5
407.9
873.1
51.6
0.0
24.3
423.2
808.7
132.4
28.9
24.3
437.2
846.5
2009
2010
2011
2012
2013
退職給与引当金繰入額
退職金
役員報酬
職員人件費
教員人件費


（百万円）
帰属収入と帰属収支差額の推移
4,500
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
3,084
3,063
3,849
3,695
3,107
3,585
3,754
3,088
2,972
3,077
148
250
229
238
174
2009
2010
2011
2012
2013
翌年度繰越消費収入超過額
帰属収入
帰属収支差額
※帰属収支差額＝帰属収入－消費支出


消費収支計算書の財務比率の推移
（%）
140
120
100
80
60
40
20
0
101.4
94.3
96.8
106.0
125.4
86.0
90.6
88.0
90.2
86.6
43.5
45.6
46.0
44.0
47.8
40.6
35.7
36.2
35.6
34.5
10.6
4.8
9.9
8.1
9.8
7.4
10.4
8.0
11.1
5.7
4.9
4.8
5.3
4.2
5.5
1.0
0.3
0.2
0.2
0.7
0.0
0.0
0.0
0.0
0.0
2009
2010
2011
2012
2013
学生生徒等納付金比率
消費収支比率
人件費比率
教育研究経費比率
帰属収支差額比率
管理経費比率
補助金比率
寄付金比率
借入金等利息比率
（注）帰属収入に対する割合


貸借対照表の財務比率の推移
（%）
700.0
600.0
500.0
400.0
300.0
200.0
100.0
0.0
529.0
538.6
550.0
600.5
533.7
100.0
100.0
100.0
100.0
100.0
100.0
100.0
100.0
100.0
100.0
14.1
14.6
14.8
14.1
11.7
5.2
5.2
5.2
4.9
5.4
4.9
4.9
4.9
4.7
5.1
2009
2010
2011
2012
2013
流動比率
退職給与引当金率
基本金比率
消費収支差額構成比率
負債比率
総負債比率


資産・負債・自己資金の推移
（億円）
300
250
200
150
100
50
0
254.9
257.6
259.9
261.8
264.8
242.4
244.9
247.1
249.5
251.3
12.5
12.7
12.7
12.3
13.5
2009
2010
2011
2012
2013
資産
自己資金
負債
※自己資金＝資産－負債＝基本金＋消費収支差額

資金収支の推移

（単位：百万円）

科目 ＼ 年度		2009 決算額	2009 伸率	2010 決算額	2010 伸率	2011 決算額	2011 伸率	2012 決算額	2012 伸率	2013 決算額	2013 伸率
資金収入の部	学生生徒等納付金収入	2,794	-1.6%	2,775	-0.7%	2,719	-2.0%	2,682	-1.4%	2,665	-0.6%
	手数料収入	23	-5.1%	22	-0.6%	22	-3.1%	24	12.3%	21	-12.5%
	寄付金収入	9	23.2%	7	-29.1%	5	-32.7%	20	349.7%	30	48.2%
	補助金収入	151	-5.4%	147	-2.5%	165	11.7%	126	-23.3%	171	35.2%
	資産運用収入	67	-29.3%	62	-7.5%	66	6.1%	57	-13.6%	63	10.7%
	事業収入	9	6.7%	9	3.6%	8	-10.3%	8	5.9%	8	-3.5%
	雑収入	27	71.9%	40	48.0%	91	124.9%	23	-75.1%	106	366.2%
	前受金収入	504	-0.3%	481	-4.6%	459	-4.5%	478	4.1%	433	-9.4%
	その他の収入	5	-98.4%	27	398.5%	69	152.3%	594	765.1%	1,034	74.1%
	資金収入調整勘定	△ 542	3.4%	△ 567	4.8%	△ 596	5.1%	△ 479	-19.6%	△ 617	28.8%
	前年度繰越支払資金	3,663	8.0%	3,568	-2.6%	3,689	3.4%	3,716	0.7%	3,446	-7.3%
	収入の部合計	6,711	-2.1%	6,571	-2.1%	6,695	1.9%	7,249	8.3%	7,360	1.5%
資金支出の部	人件費支出	1,306	2.2%	1,389	6.4%	1,408	1.3%	1,276	-9.4%	1,432	12.2%
	（うち教職員等人件費支出）	1,277	0.7%	1,316	3.0%	1,305	-0.8%	1,256	-3.8%	1,308	4.1%
	（うち退職金支出）	29	192.7%	74	155.6%	102	39.0%	19	-80.9%	124	533.9%
	教育研究費支出	878	15.7%	724	-17.5%	762	5.3%	698	-8.5%	674	-3.4%
	管理経費支出	275	4.5%	246	-10.5%	260	5.5%	266	2.4%	297	11.8%
	借入金等利息支出	1	-55.8%	0	-100.0%	0	-	0	-	0	-
	借入金等返済支出	30	0.0%	0	-100.0%	0	-	0	-	0	-
	施設関係支出	76	-79.4%	78	2.6%	120	54.5%	302	150.7%	888	194.3%
	設備関係支出	45	121.8%	39	-13.4%	38	-2.1%	243	539.0%	69	-71.7%
	資産運用支出	469	-11.6%	443	-5.5%	412	-6.9%	711	72.3%	511	-28.1%
	その他の支出	183	51.1%	122	-33.3%	169	38.6%	397	134.9%	98	-75.3%
	資金支出調整勘定	△ 119	-33.2%	△ 159	33.8%	△ 191	19.8%	△ 89	-53.3%	△ 219	145.7%
	次年度繰越支払資金	3,568	-2.6%	3,689	3.4%	3,716	0.7%	3,446	-7.3%	3,610	4.7%
	支出の部合計	6,711	-2.1%	6,571	-2.1%	6,695	1.9%	7,249	8.3%	7,360	1.5%

当年度資金収支差額	△ 95	-135.1%	121	-227.0%	27	-77.9%	△ 270	-1107.7%	164	-160.7%

消費収支の推移

（単位：百万円）

年度 / 科目	2009 決算額	2009 伸率	2010 決算額	2010 伸率	2011 決算額	2011 伸率	2012 決算額	2012 伸率	2013 決算額	2013 伸率
学生生徒等納付金	2,794	-1.6%	2,775	-0.7%	2,719	-2.0%	2,682	-1.4%	2,665	-0.6%
手数料	23	-5.1%	22	-0.6%	22	-3.1%	24	12.3%	21	-12.5%
寄付金	10	-11.2%	7	-26.7%	5	-31.4%	21	324.1%	31	47.9%
補助金	151	-5.4%	147	-2.5%	165	11.7%	126	-23.3%	171	35.2%
資産運用収入	67	-29.3%	62	-7.5%	66	6.1%	57	-13.6%	63	10.7%
事業収入	9	6.7%	9	3.6%	8	-10.3%	8	5.9%	8	-3.5%
雑収入	27	71.9%	40	48.2%	104	157.8%	54	-48.2%	119	120.0%
帰属収入合計	3,081	-2.3%	3,063	-0.6%	3,088	0.8%	2,972	-3.7%	3,077	3.5%
基本金組入額合計	△ 188	-29.9%	△ 81	-57.0%	△ 134	66.5%	△ 392	191.8%	△ 761	94.4%
第１号基本金組入額	△ 185	-30.3%	△ 76	-59.2%	△ 121	60.0%	△ 388	220.9%	△ 753	93.9%
第２号基本金組入額	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
第３号基本金組入額	△ 2	17.9%	△ 5	118.7%	△ 13	163.3%	△ 4	-73.2%	△ 9	146.1%
第４号基本金組入額	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
消費収入の部合計	2,893	0.3%	2,982	3.1%	2,954	-1.0%	2,581	-12.6%	2,316	-10.3%
人件費	1,341	-2.8%	1,396	4.1%	1,419	1.7%	1,308	-7.9%	1,471	12.5%
（うち教職員人件費等）	1,285	1.0%	1,343	4.5%	1,324	-1.4%	1,256	-5.1%	1,339	6.6%
（うち退職給与引当金繰入額	55	-48.2%	53	-4.4%	95	79.2%	52	-45.8%	132	156.9%
教育研究費	1,250	11.9%	1,093	-12.6%	1,117	2.2%	1,059	-5.2%	1,063	0.4%
（うち減価償却額）	372	3.7%	369	-1.0%	354	-4.0%	361	1.9%	389	7.7%
管理経費	327	0.6%	304	-7.0%	303	-0.6%	310	2.4%	342	10.3%
（うち減価償却額）	52	-15.6%	58	11.1%	43	-26.1%	44	2.3%	45	1.3%
借入金等利息	1	-55.8%	0	-100.0%	0	-	0	-	0	-
資産処分差額	1	-18.0%	1	-12.5%	2	268.9%	44	1689.1%	11	-75.8%
徴収不能額	13	-4.5%	20	50.3%	18	-8.8%	14	-22.2%	17	23.5%
消費支出の部合計	2,933	3.3%	2,814	-4.1%	2,859	1.6%	2,734	-4.4%	2,904	6.2%
当年度消費収支差額	△ 40	-185.4%	169	-522.7%	95	-44.0%	△ 154	-262.6%	△ 588	282.1%
前年度繰越消費収支差額	3,625	1.3%	3,585	-1.1%	3,754	4.7%	3,849	2.5%	3,695	-4.0%
基本金取崩額	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
次年度繰越消費収支差額	3,585	-1.1%	3,754	4.7%	3,849	2.5%	3,695	-4.0%	3,107	-15.9%

貸借対照表の推移

（単位：百万円）

科目 ＼ 年度末		2009		2010		2011		2012		2013	
		決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
資産の部	固定資産	21,899	85.9%	22,027	85.5%	22,174	85.3%	22,489	85.9%	22,742	85.9%
	有形固定資産	12,232	48.0%	11,922	46.3%	11,676	44.9%	11,739	44.8%	12,268	46.3%
	土地	5,568	21.8%	5,568	21.6%	5,632	21.7%	5,673	21.7%	5,673	21.4%
	建物・構築物	5,996	23.5%	5,716	22.2%	5,438	20.9%	5,153	19.7%	5,849	22.1%
	教育研究用機器備品	270	1.1%	234	0.9%	201	0.8%	284	1.1%	272	1.0%
	図書	391	1.5%	397	1.5%	401	1.5%	405	1.5%	409	1.5%
	その他	8	0.0%	6	0.0%	5	0.0%	223	0.9%	65	0.2%
	その他の固定資産	9,666	37.9%	10,106	39.2%	10,498	40.4%	10,750	41.1%	10,474	39.6%
	有価証券	1	0.0%	1	0.0%	1	0.0%	1	0.0%	1	0.0%
	特定資産	9,660	37.9%	10,099	39.2%	10,487	40.4%	10,662	40.7%	10,396	39.3%
	その他	6	0.0%	6	0.0%	10	0.0%	88	0.3%	78	0.3%
	流動資産	3,591	14.1%	3,733	14.5%	3,813	14.7%	3,690	14.1%	3,735	14.1%
	現金預金	3,568	14.0%	3,689	14.3%	3,716	14.3%	3,446	13.2%	3,610	13.6%
	その他	23	0.1%	44	0.2%	97	0.4%	244	0.9%	126	0.5%
	資産の部合計	25,490	100.0%	25,760	100.0%	25,987	100.0%	26,179	100.0%	26,477	100.0%
負債の部	固定負債	575	2.3%	582	2.3%	580	2.2%	612	2.3%	652	2.5%
	長期借入金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	退職給与引当金	575	2.3%	582	2.3%	580	2.2%	612	2.3%	652	2.5%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	流動負債	679	2.7%	693	2.7%	693	2.7%	614	2.3%	700	2.6%
	短期借入金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	前受金	504	2.0%	481	1.9%	459	1.8%	478	1.8%	433	1.6%
	その他	175	0.7%	212	0.8%	234	0.9%	136	0.5%	267	1.0%
	負債の部合計	1,254	4.9%	1,275	4.9%	1,273	4.9%	1,227	4.7%	1,351	5.1%
基本金の部	第１号基本金	19,153	75.1%	19,228	74.6%	19,349	74.5%	19,737	75.4%	20,490	77.4%
	第２号基本金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	第３号基本金	1,316	5.2%	1,321	5.1%	1,334	5.1%	1,338	5.1%	1,347	5.1%
	第４号基本金	182	0.7%	182	0.7%	182	0.7%	182	0.7%	182	0.7%
	基本金の部合計	20,651	81.0%	20,731	80.5%	20,865	80.3%	21,257	81.2%	22,019	83.2%
消費収支差額の部合計		3,585	14.1%	3,754	14.6%	3,849	14.8%	3,695	14.1%	3,107	11.7%
負債・基本金・消費収支差額合計		25,490	100.0%	25,760	100.0%	25,987	100.0%	26,179	100.0%	26,477	100.0%

原価償却額の累計額	6,779	－	7,131	－	7,450	－	7,819	－	8,009	－
基本金未組入額	1	－	1	－	1	－	1	－	1	－

消費収支計算書関係比率の推移

	比　率	算　式（＊１００）	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
			%	%	%	%	%
1	人件費比率	人件費 / 帰属収入	43.5	45.6	46.0	44.0	47.8
2	人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	48.0	50.3	52.2	48.8	55.2
3	教育研究経費比率	教育研究経費 / 帰属収入	40.6	35.7	36.2	35.6	34.5
4	管理経費比率	管理経費 / 帰属収入	10.6	9.9	9.8	10.4	11.1
5	借入金等利息比率	借入金等利息 / 帰属収入	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	帰属収支差額比率	帰属収入－消費支出 / 帰属収入	4.8	8.1	7.4	8.0	5.6
7	消費収支比率	消費支出 / 消費収入	101.4	94.3	96.8	106.0	125.4
8	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 帰属収入	90.7	90.6	88.0	90.2	86.6
9	寄付金比率	寄付金 / 帰属収入	0.3	0.2	0.2	0.7	1.0
10	補助金比率	補助金 / 帰属収入	4.9	4.8	5.3	4.2	5.5
11	基本金組入率	基本金組入額 / 帰属収入	6.1	2.6	4.3	13.2	24.7
12	減価償却費比率	減価償却費 / 消費支出	14.5	15.2	13.9	14.8	14.9

貸借対照表関係比率の推移

	比　率	算　式（＊１００）	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
			%	%	%	%	%
1	固定資産構成比率	固定資産 / 総資産	85.9	85.5	85.3	85.9	85.9
2	流動資産構成比率	流動資産 / 総資産	14.1	14.5	14.7	14.1	14.1
3	固定負債構成比率	固定負債 / 総資金	2.3	2.3	2.2	2.3	2.5
4	流動負債構成比率	流動負債 / 総資金	2.7	2.7	2.7	2.3	2.6
5	自己資金構成比率	自己資金 / 総資金	95.1	95.1	95.1	95.3	94.9
6	消費収支差額構成比率	消費収支差額 / 総資金	14.1	14.6	14.8	14.1	11.7
7	固定比率	固定資産 / 自己資金	90.4	90.0	89.7	90.1	90.5
8	固定長期適合率	固定資産 / 自己資金＋固定負債	88.3	87.9	87.7	88.0	88.2
9	流動比率	流動資産 / 流動負債	529.0	538.6	550.0	600.5	533.7
10	総負債比率	総負債 / 総資産	4.9	4.9	4.9	4.7	5.1
11	負債比率	総負債 / 自己資金	5.2	5.2	5.2	4.9	5.4
12	前受金保有率	現金預金 / 前受金	708.4	767.3	809.0	720.8	833.2
13	退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金（資産） / 退職給与引当金	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
14	基本金比率	基本金 / 基本金要組入額	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
15	減価償却比率	減価償却累計額 / 減価償却資産取得価格（図書を除く）	51.9	54.5	56.9	58.6	56.4

Ⅳ．処務概要

１．会議

2013 年度の学校法人国際武道大学理事会、評議員会を下記のとおり開催した。

① 理事会（理事定数　寄附行為第 5 条第 1 項第一号　15 名以上 25 名以内　現在数 21 名）

第 1 回（1）　2013 年 5 月 17 日（金）14：30～15：00　霞が関ビル 35 階

出席理事 19 名、委任状提出理事 2 名、出席監事 2 名

議案

第 1 号議案「2012 年度事業実績報告」について

第 2 号議案「2012 年度決算」について

報告事項

１.「2013 年 3 月 23 日以降の主な事項」について

２.「就職状況」について

第 1 回（2）　2013 年 5 月 17 日（金）　16：00～16：10　霞が関ビル 35 階

出席理事 19 名、委任状提出理事 2 名、出席監事 2 名

議案

第 1 号議案「2014 年度入学検定料、入学金及び学費」について

第 2 号議案「規程及び規則等」について

第２回　2013 年 10 月 4 日（金）　14：30～15:05　霞が関ビル 35 階

出席理事 15 名、委任状提出理事 5 名、出席監事 2 名

議案

第 1 号議案「大学の運営方針」について

第 2 号議案「建物の面積変更」について

第 3 号議案「規程及び規則等」について

報告事項

１.「2013 年 5 月 18 日以降の主な事項」について

２.「理事の功労金」について

３.「入試」について

４.「国際武道大学松前達郎記念球場の竣工」について

５.「国際武道大学創立 30 周年記念事業」について

６.「大学入試センター試験」について

第３回　2014 年 2 月 14 日（金）　15：45～16：15　霞が関ビル 35 階

出席理事 14 名、委任状提出理事 5 名、出席監事 2 名

議案

第 1 号議案「2013 年度収支予算の補正予算（案)」について

第 2 号議案「規程及び規則等」について

報告事項

１.「2013 年 10 月 5 日以降の主な事項」について

２.「理事の功労金」について

３.「入試」について

４.「就職状況」について

５.「創立 30 周年記念事業　新築・改修工事」について

６.「役付教員」について

第４回　（１）　2014 年 3 月 20 日（木）　17：10～17：45　霞が関ビル 35 階

出席理事 16 名、委任状提出理事 3 名、出席監事 2 名

議案

第 1 号議案「2014 年度事業計画」について

第 2 号議案「2014 年度収支予算」について

第 3 号議案「任期満了に伴う第 11 期評議員の選任」について

第 4 号議案「規程及び規則等」について

報告事項

１.「2014 年 2 月 15 日以降の主な事項」について

２.「入試」について

第４回　（２）　2014 年 3 月 20 日（木）　18：05～18：15　霞が関ビル 35 階

出席理事 16 名、委任状提出理事 3 名、出席監事 2 名

議案

第 1 号議案「任期満了に伴う第 11 期評議員の選任」について

② 評議員会（評議員定数　寄附行為第21条第2項　31名以上51名以内　現在数43名）

第１回　2013年5月17日（金）　15：10～15：50　霞が関ビル35階

出席評議員34名、委任状提出評議員9名、出席監事2名

議案

第1号議案「2012年度事業実績報告」について

第2号議案「2012年度決算」について

第3号議案「2014年度入学検定料、入学金及び学費」について

第4号議案「規程及び規則等」について

報告事項

１.「2013年3月23日以降の主な事項」について

２.「就職状況」について

第２回　2013年10月4日（水）　15：15～15：50　霞が関ビル35階

出席評議員32名、委任状提出評議員10名、出席監事2名

議案

第1号議案「大学の運営方針」について

第2号議案「建物の面積変更」について

第3号議案「規程及び規則等」について

報告事項

１.「2013年5月18日以降の主な事項」について

２.「理事の功労金」について

３.「入試」について

４.「国際武道大学松前達郎記念球場の竣工」について

５.「国際武道大学創立30周年記念事業」について

６.「大学入試センター試験」について

第３回　2014年2月14日（金）　15：00～15：30　霞が関ビル35階

出席評議員28名、委任状提出評議員13名、出席監事2名

議案

第1号議案「2013年度収支予算の補正予算（案)」について

第2号議案「規程及び規則等」について

報告事項

１.「2013年10月5日以降の主な事項」について

２.「理事の功労金」について

３.「入試」について

４.「就職状況」について

５.「創立30周年記念事業　新築・改修工事」について

６・「役付教員」について

第４回（１）　2014 年 3 月 20（木）16：30～17：00　霞が関ビル 35 階

出席評議員 34 名、委任状提出評議員 7 名、出席監事 2 名

議案

第 1 号議案「2014 年度事業計画」について

第２号議案「2014 年度収支予算」について

第３号議案「規程及び規則等」について

報告事項

１.「2014 年 2 月 15 日以降の主な事項」について

２.「入試」について

３.「入試」について

第４回（２）　2014 年 3 月 20（木）17：50～18：00　霞が関ビル 35 階

出席評議員 34 名、委任状提出評議員 7 名、出席監事 2 名

議案

第 1 号議案「任期満了に伴う第 11 期評議員の選任」について

③ 常務理事会

2013 年度の学校法人国際武道大学常務理事会を下記のとおり開催した。

常務理事会	理 事 長	松前　達郎（議長）
	副理事長	尾郷　良幸
	副理事長	松前　義昭
	常務理事・学長	蒔田　　実
	常務理事	青木　勝彦
	常務理事	直井　三郎
	常務理事・副学長	高見　令英
	常務理事・事務局長	中村　敏之
	常務理事・就職部長	岩井　美樹
	監　　事	内田　安昭
	監　　事	笠巻　孝嗣
出席者	理事・研究科長	中島　一郎
	学 部 長	清水　宣雄

◎ 常務理事会

第 1 回　2013 年 4 月 19 日（金）　13：00～14：25

出席者数 8 名、書記：事務部次長

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「2013 年度奨学生」について

２.「2014 年度入学検定料、入学金及び学費」について

３.「大学院の改革」について

４.「常務理事会・理事会・評議員会の開催」について

５.「常務理事会等の日程」について

報告事項

１.「2012 年度 常務理事会のまとめ」について

２.「2013 年度入試結果」について

３.「職員研修旅行」について

４.「兼業」について

５.「創立 30 周年記念　建設物並びに改修工事」について

６．その他

（１）コスト削減について

第２回　2013 年 5 月 9 日（木）　10：50～12：40

出席者数 8 名、書記：事務部次長

指名出席者　関会計課長（決算及び資産運用の説明）

　　鵜澤学長室次長（教育目標・方針の説明）

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「2012 年度事業実績報告」について

２.「2012 年度決算」について

３.「資産の運用」について

４.「2014 年度大学院の学費」について

５.「2014 年度任期制教員の採用」について

６.「教育目標・各種方針」について

７.「創立 30 周年記念　建設物並びに改修工事の方針」について

８.「強化指定選手奨学金の変更」について

９.「規程及び規則等」について

報告事項

１.「就職状況」について

２.「団体交渉」について

第３回　2013 年 5 月 17 日（金）　13：00～14：05

出席者数 13 名、書記：事務部次長

場　　所　東海大学校友会館　霞が関ビル 35 階

審議事項

１.「創立 30 周年記念　建設物並びに改修工事の方針」について

２.「資産の運用」について

３.「2014 年度任期制教員の採用」について

４.「理事会・評議員会」について

（１）「2012 年度事業実績報告」について

（２）「2012 年度決算」について

（３）「2014 年度入学検定料、入学金及び学費」について

（４）「規程及び規則等」について

報告事項

１.「2013 年 3 月 23 日以降の主な事項」について

２.「2013 年度入試結果」について

３.「就職状況」について

第４回　2013 年 5 月 24 日（金）　13：00～13：30

出席者数 7 名、書記：事務部次長

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「兄弟姉妹が複数在籍する者に対する学費等減免」について

２.「若潮杯争奪武道大会の優勝旗制作」について

報告事項

１.「大学入試センター試験」について

２.「2020 年オリンピック・パラリンピック競技大会の招致活動」について

第５回　2013 年 6 月 28 日（金）　13：00～14：20

出席者数 7 名、書記：事務部次長

指名出席者　関会計課長（資産運用の説明）

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「資産の運用」について

２.「理事の功労金」について

３.「食堂関係の業務委託」について

４．その他

（１）「大学院の改革」について

報告事項

１.「屋内野球練習場工事の進捗状況」について

２.「創立 30 周年記念事業」について

３.「労働条件等確認請求」について

第６回　2013 年 7 月 25 日（木）　11：00～13：00

出席者数 7 名、書記：事務部次長

指名出席者：野村教務部次長（補助金の説明）

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「創立 30 周年記念事業」について

報告事項

１.「大学院改革の進捗状況」について

２.「労働条件等確認請求」について

３.「後援会支部総会の参加状況」について

第７回　2013 年 9 月 11 日（水）　15：00～16：10

出席者数 7 名、書記：事務部次長

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「永年勤続者表彰対象者」について

２.「建学の精神・教育目標・各種方針」について

３.「労働条件等確認請求」について

４.「校舎の面積変更」について

５.「規程及び規則等」について

６.「創立 30 周年記念事業」について

７．その他

（１）松前義昭副理事長の名誉教授の授与について

報告事項

１.「入試の状況」について

２.「9 月卒業式」について

３.「教員免許更新講習」について

４.「全国高等学校体育学科・コース　スポーツ大会」について

５.「松前達郎記念球場の竣工」について

６.「常務理事会、理事会・評議員会の開催」について

７.「常務理事会等の日程」について

第８回　2013 年 10 月 4 日（金）　13：30～14：05

出席者数 12 名、書記：事務部次長

場　　所　東海大学校友会館　霞が関ビル 35 階

審議事項

１.「理事会・評議員会」について

（１）「大学の運営方針」について

（２）「建物の面積変更」について

（３）「規程及び規則等」について

報告事項

１.「2013 年 5 月 18 日以降の主な事項」について

２.「理事の功労金」について

３.「入試」について

４.「資産の運用状況」について

５.「国際武道大学松前達郎記念球場の竣工」について

６.「国際武道大学創立 30 周年記念事業」について

７.「大学入試センター試験」について

第９回　2013 年 10 月 11 日（金）　13：00～13：20

出席者数 6 名、書記：事務部次長

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「名誉客員教授の委嘱」について

報告事項

１.「創立 30 周年記念式典・祝賀会」について

２.「2014 年度予算編成」について

３．その他

（１）「入試」について

第 10 回　2013 年 10 月 25 日（金）　13：00～14：05

出席者数 7 名、書記：事務部次長

場　　所　国際武道大学　1 号館 5 階大会議室

審議事項

１.「常務理事会等の日程」について

報告事項

１.「入試状況」について

２.「大学院の改革」について

３.「団体交渉」について

４.「創立 30 周年記念式典・祝賀会」について

５.「名誉客員教授の辞令交付」について

６．その他

（１）「卒業生向けのサービス」について

第 11 回　2013 年 11 月 8 日（金）　13：00～14：05

出席者数 7 名、書記：事務部次長

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「創立 30 周年記念事業　建設・改修工事プロジェクト」について

２.「常務理事会の開催」について

３．その他

（１）国際交流について

報告事項

１.「大学の広報」について

２.「団体交渉」について

３.「卒業生の活躍」について

第 12 回　2013 年 11 月 22 日（金）　13：00～14：00

出席者数 7 名、書記：事務部次長

指名出席者　関会計課長（資産運用の説明）

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「創立 30 周年記念事業　新築・改修工事」について

２.「2013 年　年末以降の日程」について

３．その他

（１）将来構想検討会議について

報告事項

１.「入試状況」について

２.「資産の運用状況」について

３．その他

（１）団体交渉について

第 13 回　2013 年 12 月 13 日（金）　16：30～16：55

出席者数 13 名、書記：事務部次長

場　　所　東海大学校友会館　霞が関ビル 35 階

審議事項

１.「創立 30 周年記念事業　新築・改修工事」について

２.「2013 年　年末以降の日程」について

報告事項

１.「2013 年 10 月 5 日以降の主な事項」について

２.「入試」について

３.「創立 30 周年記念式典・祝賀会」について

４.「名誉客員教授の委嘱」について

５.「資産の運用状況」について

第 14 回　2014 年 1 月 15 日（水）　12：00～12：40

出席者数 7 名、書記：事務部次長

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「常務理事会・理事会・評議員会の開催」について

２．その他

（１）入学定員について

報告事項

１.「入試状況」について

２.「大学入試センター試験の実施」について

３.「労働条件等確認請求」について

第 15 回　2014 年 2 月 7 日（金）　13：00～14：30

出席者数 6 名、書記：事務部次長

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「2013 年度収支予算の補正予算（案）」について

２.「施設設備改修に伴う補助金の申請と予算」について

３.「創立 30 周年記念樹の植樹」について

４.「役付教員」について

５.「規程及び規則等」について

６．その他

（１）「団体交渉」について

報告事項

１.「入試状況」について

２.「就職状況」について

３.「労働条件等確認請求」について

４.「2014 年度キャンパスカレンダー」について

第 16 回　2014 年 2 月 14 日（金）　13：30～14：10

出席者数 13 名、書記：事務部次長

場　　所　東海大学校友会館　霞が関ビル 35 階

審議事項

１.「理事会・評議員会」について

（１）「2013 年度収支予算の補正予算（案)」について

（２）「規程及び規則等」について

２.「資産の運用」について

３.「施設設備改修に伴う補助金の申請と予算」について

４.「創立 30 周年記念樹の植樹」について

５.「役付教員」について

報告事項

１.「2013 年 12 月 14 日以降の主な事項」について

２.「理事の功労金」について

３.「入試」について

４.「就職状況」について

第 17 回　2014 年 2 月 21 日（金）　13：00～13：40

出席者数 6 名、書記：事務部次長

場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室

検討事項

１.「教職員の退職及び採用」について

２.「学費未納（滞納）者に対する取り扱い」について

３．「学費」について
４．「規程及び規則等」について
５．「常務理事会・理事会・評議員会の開催」について
報告事項
１．「後援会役員との懇談会・懇親会」について
２．その他
（１）降雪被害について

第 18 回　2014 年 3 月 14 日（金）　13:00～14：55
出席者数 7 名、書記：事務部次長
指名出席者　関会計課長（収支予算、教育振興募金、資産運用の説明）
鵜澤企画課長（大学評価申請）
場　　所　国際武道大学 1 号館 5 階　小会議室
検討事項
１．「2015 年度入試」について
２．「2015 年度入学金及び学費」について
３．「教育振興募金」について
４．「2014 年度事業計画」について
５．「2014 年度収支予算」について
６．「人事」について
７．「将来構想検討会議」について
８．「2014 年度常務理事会の日程」について
報告事項
１．「入試状況」について
２．「後援会役員との懇談会」について

２．役員・評議員等の異動状況

2013 年度の学校法人国際武道大学の役員・評議員の異動状況は下記のとおりである。

① 理　事
安西　邦夫（第四号）　2013 年 6 月 9 日　逝去
宮脇　磊介（第四号）　2014 年 2 月 9 日　逝去

② 評議員
安西　邦夫（第三号）　2013 年 6 月 9 日　逝去
宮脇　磊介（第三号）　2014 年 2 月 9 日　逝去

３．規程・規則等の整備状況について

2013 年度の規程・規則等の制定、改正等及び文部科学省への届け出は下記のとおりである。

① 規程・規則等の制定（2 件）

規　程　等　名	制 定 日
国際武道大学強化指定選手スポーツ奨学金規則	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学奨学金委員会規則	2013 年 5 月 17 日

② 規程・規則等の改正（22 件）

規　程　等　名	改 正 日
国際武道大学大学院学則	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学学則	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学スポーツ奨学金規則	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学スポーツ奨学金内規	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学奨学金規程	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学大学院奨学金規則	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学私費留学生奨学金規則	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学別科奨学金規則	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学島嶼部入学者奨学金規則	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学における公的研究費の取扱いに関する規則	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学附属武道・スポーツ科学研究所規程	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学研究支援委員会規則	2013 年 5 月 17 日
学校法人国際武道大学及び国際武道大学管理組織規程施行規則	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学強化指定選手スポーツ奨学金規則	2013 年 10 月 4 日
国際武道大学内部質保証検討委員会規則	2013 年 10 月 4 日
国際武道大学大学院学則	2014 年 2 月 14 日
国際武道大学大学院学位規程	2014 年 2 月 14 日
国際武道大学大学院武道・スポーツ研究科教育・研究指導規程	2014 年 2 月 14 日
国際武道大学体育学部在学生の大学院科目等履修生に関する規則	2014 年 2 月 14 日

学校法人国際武道大学施設設備使用規則	2014 年 3 月 20 日
学校法人国際武道大学教職員宿舎使用規則	2014 年 3 月 20 日
国際武道大学における補習、追試験等に係る手数料規則	2014 年 3 月 20 日

③ 規程・規則等の廃止（3 件）

規　程　等　名	廃 止 日
武道種目学生学費等減免内規	2013 年 5 月 17 日
競技成績が優秀な入学者に対する学費等減免内規	2013 年 5 月 17 日
国際武道大学奨学金部会規則	2013 年 5 月 17 日

④ 文部科学省への届出（2 件）

規　程　等　名	届 出 日
国際武道大学大学院学則の改正（大学院ｶﾘｷｭﾗﾑ、学費別表）	2014 年 3 月 4 日
国際武道大学学則の改正（学費別表）	2014 年 3 月 4 日